

1) 訪問看護推進事業 (県委託)

(1) 会議・相談・講習会・見学体験

年度	訪問看護推進協議会 (回)	訪問看護総合相談 (件)	訪問看護病院経営者講習会		見学体験	
			回数	参加人数	見学人数	就業者数
平成24年度	2	53	—	—	—	—
平成25年度	2	100	—	—	—	—
平成26年度	2	85	—	—	—	—
平成27年度	2	110	—	—	—	—
平成28年度	1	108	—	—	22	4
平成29年度	1	110	3	186	16	4
平成30年度	1	117	1	54	15	2
令和元年度	書面1	44	1	48	16	3
令和2年度	1	44	1	12	—	—
令和3年度	Web1 対面1	33	1	28	6	5

(2) 地域連携フォーラム

年度	開催内容	参加者数 (名)
平成24年度	1. 地域連携フォーラム 対象：県内多職種 内容：講演「経口移行に役立つ摂食・嚥下リハビリテーションテクニック」 シンポジウム「経口摂取移行にむけた多職種連携」	189
平成25年度	1. 君津地区 看看連携フォーラム テーマ：一緒に患者さんの退院後の生活を考えませんか 内容：訪問看護の役割等に関する講義、グループディスカッション	46
平成26年度	1. 千葉地区 看看連携フォーラム テーマ：一緒に患者さんの退院後の生活を考えませんか 内容：訪問看護の役割と退院支援に関する講義、グループディスカッション	61
	2. 君津地区 看看ケアマネ連携フォーラム テーマ：一緒に利用者さんの生活を考えませんか 内容：連携に関するグループディスカッション	44
平成27年度	※協会単独事業として実施 1. 印旛地区 看看連携フォーラム テーマ：一緒に患者さんの退院後の生活を考えませんか 内容：訪問看護の役割と退院支援に関する講義、グループディスカッション	40
	2. 千葉地区 看看ケアマネ連携フォーラム テーマ：一緒に利用者さんの生活を考えませんか 内容：連携に関するグループディスカッション	42
平成28年度	1. 長夷地区 看看連携フォーラム テーマ：一緒に患者さんの退院後の生活を考えませんか 内容：訪問看護の役割と退院支援に関する講義、グループディスカッション	58
	2. 印旛地区 看看ケアマネ連携フォーラム テーマ：一緒に利用者さんの生活を考えませんか 内容：連携に関するグループディスカッション	18
平成29年度	1. 松戸地区 看看連携フォーラム テーマ：一緒に患者さんの退院後の生活を考えませんか 内容：訪問看護の役割と退院支援に関する講義、グループディスカッション	30
	2. 長夷地区 看看ケアマネ連携フォーラム テーマ：一緒に利用者さんの生活を考えませんか 内容：地域包括支援センターの役割に関する講義、グループディスカッション	39
平成30年度	1. 市原地区 看看連携フォーラム テーマ：一緒に患者さんの退院後の生活を考えませんか 内容：訪問看護の役割と退院支援に関する講義、グループディスカッション	38
	2. 松戸地区 看看ケアマネ連携フォーラム テーマ：一緒に利用者さんの生活を考えませんか 内容：介護支援専門員の役割に関する講義、グループディスカッション	27

年 度	開 催 内 容	参加者数 (名)
令和元年度	1. 安房地区 看看連携フォーラム テーマ：一緒に患者さんの退院後の生活を考えませんか 内容：訪問看護の役割と退院支援に関する講義、グループディスカッション	31
	2. 市原地区 看看ケアマネ連携フォーラム テーマ：一緒に利用者さんの生活を考えませんか 内 容：退院支援及び訪問看護との連携事例に関する講義、グループディスカッション	29
令和2年度	1. 安房地区 看看ケアマネ連携フォーラム (Web開催) テーマ：COVID-19感染症対策下における連携 内 容：連携に関する講義 (訪問看護師、退院支援看護師、介護支援専門員の立場から)、グループディスカッション	21
令和3年度	1. 地域連携フォーラム第一弾 (Web開催) 対 象：県内在勤の看護職、ケアマネジャー等 テーマ：切れ目のない看護の提供につながる連携～コロナ禍における地域連携 内 容：活動紹介 (行政・病院・訪問看護の立場から)、グループディスカッション	49

(3) 訪問看護指導者育成研修会

年 度	開 催 内 容	参加者数 (名)
平成28年度	経営管理と人材育成に関する研修会 (3地区で実施)	42
平成29年度	経営管理と人材育成に関する研修会 (基礎編、実践編)	41
平成30年度		49
令和元年度		41
令和2年度	経営管理と人材育成に関する研修会 (Web開催・同内容を2回)	46
令和3年度		37

(4) 就職フェア

年 度	開催回数 (回)	開 催 内 容	参加者数 (名)
平成28年度	1	講演、各訪問看護ステーションPRと個別就業相談、技術体験、総合相談、訪問看護カフェ	102 (関係者含む)
平成29年度	1	ミニセミナー、交流カフェ、個別就業相談	55 (関係者含む)
平成30年度	2	ミニセミナー、交流カフェ、就業相談	24
令和元年度	1	ミニセミナー、交流カフェ、就業相談	10
令和2年度	—	中止	—
令和3年度	1	講話・相談 (求人施設・訪問看護師・就業相談推進アドバイザー)	19

(5) 訪問看護基礎研修会

年 度	開催回数 (回)	参加者数 (名)	就職者数 (名)
平成27年度	8	75	—
平成28年度	8	100	—
平成29年度	8	106	12
平成30年度	7	104	14
令和元年度	4	77	11
令和2年度	3	14	7
令和3年度	5	22	12

2) 訪問看護出向事業（県委託）

年 度	業 務 内 容	参加者数（名）
令和元年度	コーディネート業務	2
令和2年度	コーディネート業務	3

3) 訪問看護実践センター事業（県委託）

年 度	開 催 内 容
平成24年度	1. 人材育成 1) 「新卒者等人材育成プログラム」の構築と育成支援（2名） 2) 研修会の開催 （訪問看護師養成講習会、スキルアップ研修会、指導者研修会、退院支援研修会） 2. 小規模訪問看護ステーションの支援 1) IT化の促進（千葉県看護協会版訪問看護ソフトの開発等） 2) 経営診断支援 3) コールセンターの設置検討 4) サテライト設置支援（柏市にサテライト設置） 3. 訪問看護に関する調査研修 1) 県内訪問看護ステーションの現状調査（対象214ヶ所、回収186ヶ所） ・職員の配置状況等と事務作業に関する調査 2) 訪問看護師育成フォーラム開催（参加者47名）
平成25年度	1. 人材育成 1) 「新卒者等人材育成プログラム」の構築と育成支援（7名） 2) 研修会の開催 （訪問看護師養成講習会、スキルアップ研修会、管理研修、退院支援研修会） 2. 小規模訪問看護ステーションの支援 1) IT化の促進（千葉県看護協会版訪問看護ソフトの開発等） 2) 経営診断支援 3) サテライト設置支援（設置マニュアル作成・配布） 3. 訪問看護に関する調査研修 1) 県内訪問看護ステーションの意向調査（対象231ヶ所、回収120ヶ所） ・人材の育成等と当協会版訪問看護ソフト利用に関する意向調査 2) 訪問看護師育成フォーラム開催（参加者92名）

4) 新卒者等人材育成プログラムによる人材育成事業

年 度	新規育成人数（名）		備 考
	新卒看護師	チャレンジ看護師	
平成24年度	2	0	県委託事業
平成25年度	1	6	
平成26年度	2	5	協会単独事業
平成27年度	1	4	
平成28年度	3	3	
平成29年度	1	3	
平成30年度	1	0	
令和元年度	1	0	
令和2年度	1	0	
令和3年度	0	0	
合 計	13	21	

※ チャレンジ看護師とは、看護業務の実践から離れており再就職した者をいう

5 県民への健康・福祉の増進に関する事業

1) 保健知識の普及事業

公益社団法人である本協会の目的として、看護を通して県民の健康の保持増進に寄与することを定款に規定しており、地域における健康相談等の事業を通して、県民の健康への関心を高めるとともに、看護への理解を得るなどの役割を担っています。

平成2年に旧厚生省が制定した「看護の日」事業や平成14年に日本看護協会が提唱した「まちの保健室」事業などを踏まえて、社会情勢の動向や県民のニーズに応じて、各種事業を展開してきました。

「看護の日・看護週間」では、テーマである「看護のこころ」の普及を図るため、中央行事と地区部会行事を同日に開催していましたが、平成28年度からは、地域の方々が参加しやすく、より地域に密着した事業を展開するため、各地区での特性を活かした地区部会行事のみの開催としました。12地区を合わせると毎年延べ6,000名以上の参加があり、県民の健康の保持増進に貢献しています。令和2年度は、「看護の日・看護週間」制定30周年・ナイチンゲール生誕200周年にあたり、大規模な記念式典を企画していましたが、同年に発生した新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンライン形式に変更して開催しました。

また、令和3年度以降は、少子高齢化が進む中、看護職を目指す人材を増やすことを目的に、日本看護協会が、若年層に向けた看護の魅力PRを強化するよう方針を転換しました。本協会では企画に賛同しラッピングバスの運行や、県内の高等学校での「看護の出前授業」を開催しました。

「まちの保健室」は、健康状態や疾病予防など、気になることや悩みを気軽に相談できる場所として、平成28年度から、12地区部会において、集客が見込まれるショッピングモール等の会場にてイベント型、常設型の開催をしていましたが、令和2・3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止を余儀なくされました。しかし、県民からの開催要望も多く聞かれているため、感染予防対策に配慮した活動を実施する予定です。

「心の総合相談」は、千葉県の補助事業として平成22年度から開始され、平成24年度、実施体制を見直し、「心の総合相談窓口」として本協会事業として実施しています。この「心の総合相談窓口」では、看護職が持つ専門的知識を活かし、アドバイスや相談先の紹介等、ゲートキーパーとして問題解決に向け支援を行っております。

今後は、感染症拡大防止も含めた県民の健康の保持増進、県民から看護への理解を得る、さらには若年層に向けた看護の魅力の発信のためにも、社会情勢等を踏まえて積極的に事業を展開していきます。

(1) 看護の日及び看護週間事業

① 中央行事

年度	開催日	開催場所	開催内容	参加者数(名)
平成24年度	5月12日(土)	千葉市生涯学習センター	第22回県民が集う「看護の日」 千葉県看護功労者知事表彰、看護体験記、特別講演、各種測定・体験・相談、国産助産師の日行事等	435
平成25年度	5月12日(日)	・アパホテル&リゾート 東京ベイ幕張 ・プレナ幕張	第23回県民が集う「看護の日」 千葉県看護功労者知事表彰、看護体験記、特別講演、各種測定・体験・相談、国産助産師の日行事等	486
平成26年度	5月17日(土)	アパホテル&リゾート 東京ベイ幕張	第24回県民が集う「看護の日」 千葉県看護功労者知事表彰、看護体験記特別講演、各種測定・体験・相談、国産助産師の日行事等	589
平成27年度	5月23日(土)	アパホテル&リゾート 東京ベイ幕張	第25回県民が集う「看護の日」 千葉県看護功労者知事表彰、看護体験記、特別講演、国産助産師の日行事等	412
平成28年度※ 平成29年度 平成30年度 令和元年度	開催なし			
令和2年度	11月29日(日)	千葉県看護会館 (Web開催)	第30回県民が集う「看護の日」～「看護の日・看護週間」制定30周年 ・ナイチンゲール生誕200周年記念事業in ちば 記念講演、看護実践報告等	142
令和3年度	5月12日(水)	敬愛学園高等学校 (千葉市)	第31回県民が集う「看護の日」 ラッピングバスの運行、出前授業	19

平成28・29年度は中央行事の開催はなかったが、看護体験記は作成した。

② 地区部会行事

年度	開催地区	開催内容	延べ参加者数(名)
平成24年度	12地区部会	ふれあい看護体験、まちの保健室	5,592
平成25年度	12地区部会 (千葉地区は中央行事と共催)	まちの保健室	6,494
平成26年度	12地区部会 (千葉地区は中央行事と共催)	まちの保健室	5,905
平成27年度	12地区部会	まちの保健室	7,589
平成28年度	12地区部会	まちの保健室	7,265
平成29年度	12地区部会	まちの保健室	6,830
平成30年度	12地区部会	まちの保健室	7,228
令和元年度	12地区部会	まちの保健室	6,532
令和2年度	開催なし		
令和3年度	開催なし		

令和2・3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催なし

(2) 自殺予防対策

相談事業

(延件数)

年度	心の総合相談窓口
平成24年度	570
平成25年度	557
平成26年度	534
平成27年度	573
平成28年度	477

年度	心の総合相談窓口
平成29年度	492
平成30年度	495
令和元年度	424
令和2年度	167
令和3年度	95

2) 災害支援対策事業

本協会では、平成13年に千葉県知事と締結した「災害時における医療救護活動に関する協定書」、平成26年に日本看護協会と締結した「災害支援ナース派遣に関する協定書」に基づき、災害支援活動を行っています。

この10年間の災害支援ナースの派遣要請は、平成27年「台風18号による茨城県内の浸水被害」、平成28年「熊本地震」、令和元年「台風15号」の3回となりました。

平成27年の台風18号による茨城県内の浸水被害には、延べ138日間で69名、平成28年の熊本地震では延べ144日間で36名の災害支援ナースを避難所に派遣しました。県内発災である令和元年の台風15号においては、災害支援ナースに加え一般ナースにも支援を呼びかけ、延べ13日間、78名が6医療機関と2避難所に入り支援しました。

令和元年台風15号の概要としては、令和元年9月9日早朝、台風15号が千葉市付近に上陸、県内では最大約64万軒が停電、千葉市では最大瞬間風速が観測史上第1位となる57.5mもの強風の影響で、建物被害や倒木等が多数発生し、停電の長期化や、断水・通信障害など、市民生活や産業活動など多方面に大きな被害が生じる災害になりました。当日直ちに県内の各地区部会長へ被害状況等の情報収集を行い、10日、本協会内に「災害対策本部」を立ち上げ、災害支援ナースの派遣を準備、その後千葉県からの要請に基づき12日より災害支援ナース等の派遣を開始しました。その迅速な対応については関係機関からも高い評価を得ました。

また本協会では、災害発生時に迅速かつ適正に派遣ができるよう、平時から災害に関する研修会を開催しています。災害救護に関する基本的な知識を有する災害支援ナースの育成のための研修として、日本看護協会収録DVD研修「災害看護の基本的知識～災害支援ナースの第一歩～」と、「災害医療と看護（実践編）」の他に、「災害支援ナース更新・再登録要件講習会」を年1回開催しています。令和2・3年度の講習会では、災害救護に関する新しい知識の習得に加え、令和元年の台風15号で実際に支援を受けた施設からの受援体制の重要性等を加えました。受講者からは、今後支援に行った際に注意すべき事項が学べた、など有意義な講習会であったと評価されています。

また、本協会の災害時における関係機関との連携強化及び効果的な支援活動のための検討等を目的に平成29年～30年度には特別委員会として「千葉県看護協会災害対策委員会」を設置、それらを受けて令和元年度には常任委員会として位置づけられました。

令和3年度末時点では251名が災害支援ナースとして登録されています。

今後も災害支援ナースの活動の実際を伝える研修の開催や広報を行うと共に、登録方法や更新制度など、より分かりやすく簡便なシステムへ見直す等、災害支援ナース登録勸奨を強化し、登録者増加を目指していきます。

(1) 災害支援ナースの養成

年 度	研 修 名	日 数	受講者数(名)
平成24年度	災害医療と看護（基礎編）（衛星／看護会館会場）	2	180
	災害医療と看護（基礎編）（衛星／亀田総合病院会場）	2	20
	災害医療と看護（実践編）	2	85
平成25年度	災害医療と看護（基礎編）（衛星／看護会館会場）	2	151
	災害医療と看護（基礎編）（衛星／亀田総合病院会場）	2	15
	災害医療と看護（基礎編）（衛星／旭中央病院会場）	2	10
	災害医療と看護（実践編）	2	82
平成26年度	災害医療と看護（基礎編）（ネット・ライブ配信／看護会館会場）	2	130
	災害医療と看護（基礎編）（ネット・ライブ配信／亀田総合病院会場）	2	13
	災害医療と看護（基礎編）（ネット・ライブ配信／旭中央病院会場）	2	17
	災害医療と看護（実践編）	2	71
	災害支援ナースフォローアップ研修	1	83
平成27年度	災害医療と看護（基礎編）（ネット・ライブ配信／看護会館会場）	2	121
	災害医療と看護（基礎編）（ネット・ライブ配信／亀田総合病院会場）	2	20
	災害医療と看護（基礎編）（ネット・ライブ配信／旭中央病院会場）	2	16
	災害医療と看護（実践編）	2	62
	災害支援ナースフォローアップ研修	1	68
平成28年度	災害支援ナースの基礎知識～災害看護の第一歩～（ネット・ライブ配信）	2	169
	災害医療と看護（実践編）	2	91
	災害支援ナース更新・再登録要件講習会 （旧 災害支援ナースフォローアップ研修）	1	77
平成29年度	災害支援ナースの第一歩～災害看護の基本的知識～ （ネット・オンデマンド配信）	2	105
	災害医療と看護（実践編）	2	56
	災害支援ナース更新・再登録要件講習会	1	66
平成30年度	災害支援ナースの第一歩～災害看護の基本的知識～ （ネット・オンデマンド配信）	2	85
	災害医療と看護（実践編）	2	58
	災害支援ナース更新・再登録要件講習会	1	55
令和元年度	災害支援ナースの第一歩～災害看護の基礎知識～ （ネット・オンデマンド配信）	2	86
	災害支援ナースの第一歩～災害看護の基礎知識～ （ネット・オンデマンド配信）	2	74
	災害支援ナース更新・再登録要件講習会（レポート提出）	1	65
令和2年度	災害支援ナースの第一歩～災害看護の基本的知識～（JNA収録DVD研修）	2	36
	災害医療と看護（実践編）（ネット・ライブ配信）	1	55
	災害支援ナース更新・再登録要件講習会（ネット・ライブ配信）	1	44
令和3年度	災害支援ナースの第一歩～災害看護の基本的知識～（JNA収録DVD研修）	4	78
	災害医療と看護（実践編）（ネット・ライブ配信）	2	69
	災害支援ナース更新・再登録要件講習会（ネット・ライブ配信）	1	60

(2) 災害支援ナース等の派遣

年 度	災 害 名 等	派 遣 先	派遣日時	派遣人数
平成27年度	台風18号による茨城県内の浸水被害	茨城県内 8 避難所	9月16日～10月1日	69名延138日
平成28年度	平成28年熊本地震	熊本県内 4 避難所	4月29日～6月1日	36名延144日
令和元年度	令和元年台風15号	千葉県内 6 医療機関 2 避難所	9月12日～9月24日	78名延13日

* 令和元年台風15号では、災害支援ナース33名と一般ナース45名による支援となった。

(3) 令和元年台風15号における災害支援ナース等の派遣に係る主な経過

日 程	千葉県看護協会の動向
9月9日	台風15号上陸 各地区部会長へ被害状況確認メールの送信
9月10日	本協会内に「千葉県看護協会災害対策本部」を設置、開催 日本看護協会に被災状況を報告 会員施設宛てに災害支援ナースの派遣要請準備について通知
9月11日	災害対策本部の開催 2回 県から、東千葉メディカルセンターへの派遣要請あり 支援ナース所属施設に一斉メール、FAX送信 事務局にて派遣調整
9月12日	災害対策本部の開催 2回 東千葉メディカルセンターに派遣開始（9/12～16） 県から、亀田総合病院、安房地域医療センター、横芝光町への派遣要請あり 事務局にて派遣調整
9月13日	災害対策本部の開催 2回 安房地域医療センターに派遣開始（9/13～16） 横芝光町避難所に派遣開始（9/13） 事務局にて派遣調整
9月14日	県から、八街中央公民館避難所への派遣要請あり 県から、北条病院への派遣要請あり 事務局にて派遣調整 （各施設には、災害支援ナース未登録ナースについても派遣可能との連絡を入れる）
9月16日	八街中央公民館避難所に派遣開始（9/16～22） 事務局にて派遣調整
9月17日	災害対策本部の開催 2回 北条病院に派遣開始（9/17～19） 県から、さんむ医療センターへの派遣要請あり 事務局にて派遣調整
9月18日	災害対策本部の開催 2回 会長他2名現地視察 県から、鴨川市立国保病院への派遣要請あり 事務局にて派遣調整
9月19日	災害対策本部の開催 2回 事務局にて派遣調整
9月20日	災害対策本部の開催 2回 鴨川市立国保病院に派遣開始（9/20、24） ホームページに災害関連ページ掲載 事務局にて派遣調整
9月24日	災害対策本部の開催 1回 日本看護協会に派遣終了の報告
9月25日	災害対策本部の開催 1回（解散）

(4) 令和元年台風15号に係る災害支援活動報告

支援内容

○医療機関6施設

(東千葉メディカルセンター、安房地域医療センター、亀田総合病院、北条病院、さんむ医療センター、鴨川市立国保病院)

派遣先では、病棟の概要や物品の場所等のオリエンテーション後に、リーダーナースの指示のもとで看護業務を実施していた。また、被災地の混乱により指示が出せる状況でない場合にも、災害支援ナース自ら積極的に声掛けをして安全な看護業務の遂行に努力していたことが伺われた。日勤帯の看護業務が中心となったが一部、夜勤業務の支援もあった。主な看護業務は次のとおりであった。

① 病棟における看護業務

- ・環境整備、清潔ケア、おむつ交換、排泄介助、食事介助、ナースコール対応等
- ・末梢ラインの確保、薬剤投与のダブルチェック等

② 救急部門に関する業務

- ・救急外来において処置介助（胸腔ドレーン挿入・造影CT介助等）
- ・バイタルサイン測定、モニター装着、血管確保、採血、検査搬送等

○避難所2ヶ所

(横芝光町町民会館避難所、八街中央公民館避難所)

避難先では、避難所を開設している市の保健師とペアになり主に健康管理業務を実施していた。避難所内の巡回と共に避難所内の衛生管理や内服薬管理状況の把握を行い、また、自衛隊による入浴サービスがはじまると、入浴利用者への声掛けや健康状態の観察を行っていた。さらに、救護室が併設された避難所については、被災に遭った自主避難者の健康管理や怪我の応急処置等に加え、来館者の健康相談業務に対応していた。

派遣先・派遣期間・人数等

派遣先	派遣期間	派遣日数	延べ派遣人数
東千葉メディカルセンター	9/12～9/16	5	26
亀田総合病院	9/14～9/16	3	3
安房地域医療センター	9/13～9/16	4	15
横芝光町町民会館避難所	9/13	1	1
北条病院	9/17～9/19	3	3
八街中央公民館避難所	9/16～9/22	7	14
さんむ医療センター	9/18～9/23	6	12
鴨川市立国保病院	9/20・9/24	2	4
合 計		31	78

3) 感染症対策事業

近年では、平成14年アジアやカナダを中心に感染拡大が起きた重症急性呼吸器症候群（SARS）や平成21年に世界的な流行をみた新型インフルエンザ、平成24年アラビア半島の国々を中心として発生した中東呼吸器症候群(MERS)など、これまで幾度となく新興感染症の発生が見られました。

令和元年12月に、中華人民共和国湖北省武漢市で「原因不明のウイルス性肺炎」として確認された新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、瞬く間に世界各国に感染が拡大し、医療・看護の現場においては、患者の受け入れや自施設で感染者の発生など、広範囲に及ぶ対策に長期的に対応を迫られることとなりました。

本協会では、生涯教育研修で感染症対策関連の内容を毎年開催していましたが、令和2年度には日本看護協会の委託事業である「地域の医療提供体制確保のための看護職員派遣調整事業」として、①新型コロナウイルス感染症による業務への影響の実態調査、②再就業に必要な感染症対策や医療安全の内容を盛り込んだ未就業看護職を対象とした再就業支援セミナー、③「eナースセンター」「とどけるん」の情報を活用した職業紹介等に取り組みました。また、千葉県が主体となって派遣調整を行うクラスター班の構成員や支援のための看護職員を対象とした研修も実施しました。

令和3年度には、協会事業の重点事業として、地域における健康危機管理体制の整備を位置づけ、新興感染症等の感染対策に関する最新の知識、技術を習得し、看護の対象者や自身及び職場の感染を防止、安全な看護を実践できる看護職の育成を目的に、感染症対策事業を開始いたしました。

具体的には、県内の感染症看護専門看護師や感染管理認定看護師を講師に迎え「感染症対策強化研修」や、ワクチン接種業務を担う看護職の人材確保に必要な「新型コロナワクチン接種技術研修」を開催しました。ワクチン接種技術研修は、千葉県警での職域接種業務を担う看護職者や、ワクチンの調製を行う薬剤師、更に千葉県臨床検査技師会からの実技研修の協力要請があり、出張研修を実施しました。

また、令和4年1月、沖縄県での新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、日本看護協会から各都道府県看護協会へ看護師の派遣依頼があり、本協会から2名の看護師を各2週間派遣する等、支援活動を行いました。

その他、協会職員や看護会館利用者の感染対策を図るため、事業運営の大幅な変更を余儀なくされましたが、イベント・研修・会議・委員会等をweb開催に変更し、また職員の在宅勤務や時差出勤の導入など柔軟な対応をしました。

一方で、病院、保健所、訪問看護ステーションなど、新型コロナウイルス感染症に対応する看護職の必要性を多くの国民が再認識する機会ともなりました。

本協会では、日本看護協会や企業と連携し、令和3年度にクールベスト、防護服など支援物品を延べ498の会員施設に配布しました。

今後も引き続き、新型コロナウイルスをはじめとする、新興感染症から県民と看護職を守るため、健康危機管理体制の整備に取り組んでいきます。

令和2年度 地域の医療提供体制確保のための看護職員派遣調整事業

ニーズ把握調査

調査施設数	回収数	回収率(%)	感染症の影響を受けた施設(%)
5,912	1,907	32.2	90

「eナースセンター」・「とどけるん」の情報を活用した職業紹介

求人施設数	求職者数	求職者数の内新規登録者	就業者数
21	145	78	18

再就業支援セミナー

回数	参加者数	就業者数	就業率(%)
14	81	37	45.7

令和3年度 研修

研修名	実施回数	受講者数	備考
感染症対策強化研修	10	127	
訪問看護師対象感染症対策強化研修	3	35	
新型コロナワクチン接種技術研修	24	360	受講生内訳 看護職315名 薬剤師5名 臨床検査技師40名

令和3年度 会員施設（延べ498施設）へ配布した主な支援物品

品名	数量 ※
クールベスト	1,960
防護服	2,750
サージカルマスク	18,750
N95マスク	8,400
パルスオキシメーター	150
非接触体温計	155
消毒用アルコール	400
ニトリルグローブS・M	52,000
経口補水液	1,929

※ 日本看護協会からの支援物品を含む

6 看護に関する調査研究、看護業務の開発及び看護制度への提言等に関する事業

1) 職能委員会活動

(1) 保健師職能委員会活動

保健師職能委員長 久保木 知子

少子高齢化の進展や国民の保健医療ニーズの多様化複雑化、災害や新興感染症の拡大など健康危機が頻発する中で、保健師を取り巻く状況は大きく変化し、その活動や内容は拡大の一途を辿っています。

この10年間では、平成25年度に10年ぶりに改訂された「地域における保健師の保健活動に関する指針」により、統括保健師の設置や地区分担制の推進等、今後の保健師活動あり方と進むべき方向性が明記されました。

また、平成28年度に「保健師に係る研修のあり方等に関する検討会の最終報告」において、自治体の保健福祉施策の担い手である保健師の能力の成長過程を段階別に整理したキャリアラダーが示されました。

令和元年度の台風15号及び19号並びに10月25日の大雨により、千葉県では、長期の停電や断水、通信障害や浸水等様々な被害がありました。被災市町村では保健師が避難所や自宅避難の方々の対応にあたり、県内外の多くの保健師が被災市町村に派遣され、活動を行いました。

令和2年以降は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、感染症対策の第一線である保健所保健師の業務はひっ迫、市町村保健師は新型コロナウイルス感染症のワクチン接種や健康相談等の業務が通常業務に加わりました。また様々な現場において、今まで対面や集合で実施してきた住民への保健活動を縮小や中止せざるを得ない状況が続き、様々な課題に直面しました。

保健師職能委員会ではこのような動向を踏まえて、現任教育の活動基盤づくり（保健師の資質向上）と活動領域を超えたネットワークづくり等をテーマに活動を行ってきました。

現任教育の基盤づくりとしては、保健師職能集会や保健師職能交流会において、「統括保健師（平成24年度・26年度）」、「地区活動（平成25年度）」、「保健師のキャリアラダー（平成29年度）」、「実践力アップ事例検討会（平成28年度・30年度）」等、実践力を上げるだけでなく、各所属での現任教育や体制づくりが推進されるように企画を行いました。

活動領域を超えたネットワークづくりでは、「生涯を通じた健康支援」をテーマに活動領域（地域保健・産業保健・医療機関等）を超えた保健師の交流会の実施（平成26年度）や、保健師関係団体との保健師活動指針見直し検討会の開催（平成24年度）、保健師関係団体との情報交換会（平成28年度）を開催し情報交換を行いました。

令和元年度は、千葉県の多くの市町が被災し、災害時保健活動を経験したことから、学びを振り返る職能交流会を開催しました。災害時の妊産婦乳児支援に焦点をあて、助産師や災害時リエゾン看護師にも参加をいただいたことで、看護職連携を考える機会ともなりました。

令和2年以降は新型コロナウイルス感染症感染拡大により、保健師の業務がひっ迫し、委員会や交流会の開催が困難となり、企画していた研修会を中止せざるを得ない状況が続きました。

しかし、新型コロナウイルス感染症対策に携わる保健師の疲弊や、コロナに伴い新たに発生した様々な健康課題への対応等様々な課題が残されています。

今後は、保健師関係団体や助産師・看護師職能とも協働しながら、保健師が抱える課題の解決のために取組を進めてまいります。

【保健師職能委員会活動】

年 度	テ ー マ	内 容
平成24年度	現任教育の活動基盤を図る 保健師間の連携を強化するためのネットワークづくりを図る 会員数を増やし、保健師職能の組織力のアップを図る	①保健師職能集会 ②保健師職能交流会 ③保健師活動指針の見直し検討会の開催 ④全国・地区別職能委員長会への参加 ⑤保健師職能だよりの発行
平成25年度	保健師間の連携を強化するためのネットワークづくりを図る 現任教育の活動基盤づくりを図る 会員数を増やし、保健師職能の組織力のアップを図る	①保健師職能集会 ②保健師職能交流会（アンケート実施） ③全国・地区別職能委員長会、保健師活動強化戦略会への参加 ④保健師職能だよりの発行
平成26年度	保健師の資質向上と保健師間の連携を強化するためのネットワークづくり 統括的な役割を果たす保健師の配置の推進 会員数を増やし、保健師職能の組織力のアップを図る	①保健師職能集会（アンケート実施） ②保健師職能交流会（アンケート実施） ③全国・地区別職能委員長会への参加 ④保健師現在教育推進に関する会議参加 ⑤入会勧誘チラシの作成配布・メール配信 ⑥保健師職能だよりの発行
平成27年度	保健師間の連携を強化するためのネットワークづくりを図る 現任教育の活動基盤づくりを図る 会員数を増やし、保健師職能の組織力のアップを図る	①保健師職能集会（アンケート実施） ②保健師職能交流会（アンケート実施） ③全国・地区別職能委員長会への参加 ④保健師職能だよりの発行
平成28年度	保健師の活動強化と活動領域を超えた保健師のネットワークの推進 会員数を増やし、保健師職能の組織力のアップを図る	①保健師職能集会 ②保健師職能交流会 ③保健師関係団体との情報交換会 ④自治体保健師へのアンケート実施 ⑤保健師職能だよりの発行
平成29年度	保健師の活動強化と活動領域を超えた保健師のネットワークの推進 会員数を増やし、保健師職能の組織力のアップを図る	①保健師職能集会（アンケート実施） ②保健師職能交流会（アンケート実施） ③職能集会・交流会参加の非会員へ入会促進活動実施 ④次年度協会研修への要望提出 ⑤保健師職能だよりの発行
平成30年度	保健師の活動強化と活動領域を超えた保健師のネットワークの推進 会員数を増やし、保健師職能の組織力のアップを図る	①保健師職能集会（アンケート実施） ②保健師職能交流会（アンケート実施） ③職能集会・交流会参加の非会員へ入会促進活動実施 ④保健指導ミーティング開催 ⑤保健師職能だよりの発行
令和元年度	保健師が専門性を発揮し、効果的な保健活動が推進できるよう、資質向上を図ると共に、ネットワークの拡大強化による地域包括ケアの充実を図る 多様化する保健師活動に寄り添うような活動を検討し、多くの保健師とつながる事を目指しつつ、会員数を増やすことをで保健師職能の組織力アップを図る	①保健師職能集会（アンケート実施） ②保健師職能交流会（アンケート実施） ③職能集会・交流会参加の非会員へ入会促進活動実施 ④保健師職能だよりの発行
令和2年度	保健師が専門性を発揮し、効果的な保健活動が推進できるよう、資質向上を図ると共に、ネットワークの拡大強化による地域包括ケアの充実を図る 多様化する保健師活動に寄り添うような活動を検討し、多くの保健師とつながる事を目指しつつ、会員数を増やすことをで保健師職能の組織力アップを図る	①保健師職能集会・交流会共に中止 ②全国・地区別職能委員長会への参加 ③保健師職能だよりの発行
令和3年度	保健師が専門性を発揮し、効果的な保健活動が推進できるよう、資質向上を図る 多様化する保健師活動に寄り添うような活動を検討し、多くの保健師とつながる事を目指しつつ、会員数を増やすことをで保健師職能の組織力アップを図る	①保健師職能集会（アンケート実施） ②保健師職能交流会中止 ③全国・地区別職能委員長会への参加 ④保健師職能だよりの作成

(2) 助産師職能委員会活動

助産師職能委員長 青木 康子

少子高齢化が進む中、周産期医療や母子保健を取り巻く環境は大きく変化し続けています。出産数の減少により、一般病院の産婦人科、産科を標榜する施設も減少しています。さらに、医療機能の集約化、混合病棟に産科が編成され、産科混合病棟に勤務する助産師が母子のケアに専念できていない環境があり体制整備が求められています。

平成28年、厚生労働省より「周産期体制のあり方に関する検討会」意見のとりまとめから医師の負担軽減や助産師の効果的な活用の観点から、ローリスクの分娩に関わる院内助産の活用、助産師出向システムの推進などの取り組みが必要であると記されました。

母子保健施策は、母子保健法改正により、子育て世代包括支援センター設置や産後ケア事業が法制化され、平成30年には、成育過程にある者及びその保護者並びに妊産婦に対して必要な成育医療等を切れ目なく提供するための施策の総合的な推進に関する法律、成育基本法が制定されました。母子を取り巻く状況により法制度が整えられ、見直されてきましたが、地域の状況によって差異がある状況です。

助産師職能委員会では、このような中、日本看護協会の活動のもと助産師職能が抱える課題について会長へ提言できるよう取り組んできました。助産師職能集会、産科管理者交流会、中堅助産師交流会を開催し、施設の状況や日頃の取り組み、今後の課題解決にむけて情報および意見交換をおこない、助産師会員へ情報をよりスムーズに提供できるようネットワークづくりを提案してきました。

平成25年産科管理者交流会では、助産ケアの均一化と助産師の能力の見える化を図る為に「助産師実践能力習熟段階（クリニカルラダー）の活用」について、翌平成26年にはCLOCMiPレベルⅢ認証制度の申請に必要な取り組みについて開催。また、平成29年すべての妊産褥婦と新生児に助産ケアを提供する体制整備にむけ「助産師の必要人数算出について」「産後ケア事業について」を開催しました。助産師が自立して助産ケアを行う体制づくりとして、助産師外来・院内助産にむけた実践能力の標準化と質の向上にむけて、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期別のマニュアルを見直し、平成28年に各施設へ配布しマニュアル活用を推進しました。平成29年には、CLOCMiPレベルⅢ認証制度開始から2年経過後の支援状況について調査をおこない、今後の申請や更新に対しての課題と必要な支援について明らかにし、認証制度の普及・推進を図りました。令和2年以降、新型コロナウイルス感染症流行による、マタニティケアへの影響を想定し、現状把握、情報提供をおこないました。令和3年より、妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援にむけて、4つの機能である「院内助産・助産師外来」「産科関連病棟におけるユニットマネジメント」「医療機関における産後ケア事業」「地域連携」を備えたケア提供体制、「母子のための地域包括ケア病棟」について普及活動を行っています。今後も、助産師が実践能力を高め、専門性を発揮する対象者のために必要なことに取り組んでいきます。

【助産師職能委員会活動】

年 度	テ ー マ	内 容
平成24年度	県民が安全にかつ安心して妊娠、出産、育児ができるように、助産師の専門性を発揮し、質の高い助産ケアを提供する 会員相互の情報交換を図り、県内産科医療施設間の連携を強化する	①助産師職能集会の開催 ②産科病棟師長交流会の企画・開催 ③中堅助産師交流会の企画・開催 ④新人助産師交流会 ⑤「国際助産師の日」企画・開催 ⑥「助産師クリニカルリーダーの指針」の普及推進及び「助産師が安心して助産ケアを行うための体制づくり」の助産マニュアルの見直し
平成25年度	県民が安全にかつ安心して妊娠、出産、育児ができるように、助産師の専門性を発揮し、質の高い助産ケアを提供する 会員相互の情報交換を図り、県内産科医療施設間の連携を強化する	①三職能合同集会 ②産科管理者交流会 ③中堅助産師交流会 ④新人助産師交流会 ⑤「国際助産師の日」企画・開催 ⑥助産師実践能力習熟段階（クリニカルリーダー）
平成26年度	県民の安全かつ安心な妊娠、出産、育児をめざし、助産師が、実践能力を高め、その専門性を発揮できるように支援する 会員相互の情報交換を図り、県内産科医療施設間の連携を強化する	①職能集会 ②産科管理者交流会 ③中堅助産師交流会 ④「国際助産師の日」企画・開催 ⑤助産師が自立して助産ケアを行う体制づくり－助産師外来・院内助産のための助産マニュアル－
平成27年度	県民の安全かつ安心な妊娠、出産、育児をめざし、助産師が、実践能力を高め、その専門性を発揮できるように支援する 会員相互の情報交換を図り、県内産科医療施設間の連携を強化する	①職能集会 ②産科管理者交流会 ③中堅助産師交流会 ④「国際助産師の日」企画・開催 ⑤助産師が自立して助産ケアを行う体制づくり－助産師外来・院内助産のための助産マニュアル－
平成28年度	県民の安全かつ安心な妊娠、出産、育児をめざし、助産師が、実践能力を高め、その専門性を発揮できるように支援する 会員相互の情報交換を図り、県内産科医療施設間の連携を強化する	①職能集会 ②産科管理者交流会 ③中堅助産師交流会 ④「国際助産師の日」企画・開催 ⑤助産師が自立して助産ケアを行う体制づくり－助産師外来・院内助産のための助産マニュアル－
平成29年度	県民の安全かつ安心な妊娠、出産、育児をめざし、助産師が、実践能力を高め、その専門性を発揮できるように支援する 会員相互の情報交換を図り、県内産科医療施設間の連携を強化する	①職能集会 ②産科管理者交流会 ③中堅助産師交流会 ④「国際助産師の日」企画・開催 ⑤助産師だよりの発行 ⑥アドバンス助産師活動状況の把握を目的としたアンケート調査
平成30年度	県民の安全かつ安心な妊娠、出産、育児をめざし、助産師が、実践能力を高め、その専門性を発揮できるように支援する 会員相互の情報交換を図り、県内産科医療施設間の連携を強化する	①職能集会 ②産科管理者交流会 ③「国際助産師の日」企画・開催 ④アドバンス助産師の活動状況アンケート調査の分析・まとめ ⑤助産師だよりの発行 秋号(11月)春号(4月)
令和元年度	県民の安全かつ安心な妊娠、出産、育児をめざし、助産師が、実践能力を高め、その専門性を発揮できるように支援する 会員相互の情報交換を図り、県内産科医療施設間の連携を強化する	①職能集会 ②産科管理者交流会 ③中堅助産師交流会 ④「国際助産師の日」企画・開催 ⑤助産師だよりの発行 春号・秋号
令和2年度	県民の安全かつ安心な妊娠、出産、育児をめざし、助産師が、実践能力を高め、その専門性を発揮できるように支援する 会員相互の情報交換を図り、県内産科医療施設間の連携を強化する	①職能集会（中止） ②産科管理者交流会（紙面調査） ③中堅助産師交流会（中止） ④「国際助産師の日」企画・開催（中止） ⑤助産師だよりの発行 春号
令和3年度	県民の安全かつ安心な妊娠、出産、育児をめざし、助産師が、実践能力を高め、その専門性を発揮できるように支援する 会員相互の情報交換を図り、県内産科医療施設間の連携を強化する	①職能集会 ②産科管理者交流会 ③中堅助産師交流会 ④「国際助産師の日」企画・開催（中止） ⑤助産師だよりの発行 春号・秋号

(3) 看護師職能委員会 I (病院領域) 活動

看護師職能委員会 I (病院領域) 委員長 田中 且子

看護師職能委員会はこの10年間、「看護師職能が専門性を発揮しながらやりがいをもって働けることができるよう、看護師職能が抱える課題に取り組む」をテーマに活動してまいりました。少子高齢多死社会を迎え、団塊の世代が後期高齢者となる2025年に備えその人がその人らしく地域で暮らしていくための支援、暮らしと医療を支えていくための「医療・介護の在り方」に着目し、看護師が専門職として求められる役割について考え、活動を進めてまいりました。このような時代の流れに合わせ、平成27年度から看護師職能委員会は「看護師職能 I (病院領域)」と「看護師職能 II (介護及び福祉関係施設・在宅等領域)」に分割され、さらなる専門性の発揮と看護の質の向上・強化に努めてまいりました。

10年間の活動を振り返りますと、看護師教育も4年制大学が急増し、専門看護師、認定看護師、診療看護師、さらには特定行為研修修了者の増加などスペシャリストの養成が体系化されました。病院機能の分化も進み、私たち看護師の働く場所・環境の整備も加速され、看護師は病院のみならず、地域や介護の場でのさらなる専門性の発揮、人生100年時代を迎えた我が国の国民の健康を支えるリーダーとしての役割が期待されるようになりました。このような時代のニーズに応えるべく、看護師職能 I 委員会では、「看護師のキャリアデザイン」「地域連携の在り方」「入退院支援」「在宅での看取りの意思決定支援」「多職種連携」等について学び、考え、意見交換をする機会をもちました。また、さらなる看護の質の向上に向け、准看護師への進学支援についても取り組んでまいりました。経済的理由、家庭的な理由に加え、コロナ禍による不安から進学を思い留まったという意見が聞かれたのは特徴的でしたが、今後も進学支援を続けていきたいと思えます。

時代は平成から令和へと移り変わる中、大規模災害やCOVID-19の感染拡大により国民の生活も一変、それに伴い私たち看護師に求められるものも変化していきました。未知の感染症との闘いを強いられ、感染対策に必要な医療材料の供給も一時ストップするなど、常に感染リスクと、感染患者のために献身的に看護にあたる看護師たち。相反して感染病棟の看護師や家族への誹謗中傷。また、感染症病床確保のため、感染拡大防止のために本来の医療・看護が遂行できない環境下に看護師たちは数々のジレンマと闘い疲弊もしました。WITHコロナの時代を迎え、今後は2040年を見据えた医療提供体制に求められる看護師の役割について共に考えていきたいと思えます。

医療の中にもAI (人工知能) が参入し医療も進化を遂げています。しかし、人が人を見る心のこもった「看護」をAI (人工知能) は決して真似ることはできません。心のこもった看護は、私たちの独占業務であり誇りでもあります。医師の働き方改革をきっかけに「タスクシフト・シェア」に向けた動きが進んでいます。単に医師の業務を看護師にシフトチェンジすることなく、今後も看護師が看護の専門性を発揮し、やりがいと誇りをもって看護に従事できるよう看護師の抱える問題について考え、会長に提言しながら前進していきたいと思えます。

【看護師職能委員会 I（病院領域）活動】

年 度	テ ー マ	内 容
平成24年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師職能が専門性を発揮しながらやりがいをもって働きつづけることができるよう看護師職能が抱える課題に取り組む。 2. 働く職場の環境づくりについて検討を行う。 3. 看護の質向上を図るため准看護師のスキルアップと進学を支援する。 4. 介護施設における看護の質向上に向けた検討を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> ①職能集会（事前アンケート実施） ②看護師交流会(アンケート実施) ③准看護師交流会（事前アンケート実施）
平成25年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師職能が専門性を発揮しながらやりがいをもって働きつづけることができるよう、看護師職能が抱える課題に取り組む。(母子保健に関する三職能連携) 2. 看護の質向上を図るため、准看護師のスキルアップと進学を支援する。 3. 介護・福祉関係施設・在宅等領域の看護の役割を考え、看護の質向上に向けた検討を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> ①職能集会（三職能合同集会報告参照） ②看護師交流会（事前アンケート・交流会後アンケート実施） ③准看護師交流会（アンケート実施）
平成26年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師職能が専門性を発揮しながらやりがいをもって働きつづけることができるよう、看護師職能が抱える課題に取り組む。 2. 看護の質向上を図るため、准看護師のスキルアップと進学を支援する。 3. 介護・福祉関係施設・在宅等領域と病院領域の看護の役割を考え、看護の質向上に向けた検討を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> ①職能集会(アンケート実施) ②看護師交流会（アンケート実施） ③准看護師交流会（アンケート実施） ④高齢者ケア施設看護管理者交流会（事前アンケート実施）
平成27年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師職能が専門性を発揮しながらやりがいをもって働きつづけることができるよう、看護師職能が抱える課題に取り組む。 2. 看護の質向上を図るため、准看護師のスキルアップと進学を支援する。 3. 病院領域の看護の役割を考え、看護の質向上に向けた検討を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> ①看護師職能 I (病院領域)集会(アンケート実施) ②看護師交流会（アンケート実施） ③准看護師交流会（アンケート実施）
平成28年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師が専門性を発揮しながらやりがいをもって働き続けることができるよう、看護師職能 I (病院領域)が抱える課題に取り組む。 2. 看護の質向上を図るため、准看護師のスキルアップと進学を支援する。 3. 社会医療制度の動向を踏まえ、看護師職能 I (病院領域)の看護の役割を考え、質向上に向けて検討する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①看護師職能 I (病院領域)集会(アンケート実施) ②看護師交流会（アンケート実施） ③准看護師交流会（アンケート実施） ④平成27年度准看護師交流会参加者追跡アンケート実施
平成29年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師が専門性を発揮しながらやりがいをもって働き続けることができるよう、看護師職能 I (病院領域)が抱える課題に取り組む。 2. 看護の質向上を図るため、准看護師のスキルアップと進学を支援する。 3. 社会医療制度の動向を知り、看護師職能 I (病院領域)の看護の役割を考え、看護の質向上に向けた検討を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> ①看護師職能 I (病院領域)集会(アンケート実施) ②看護師交流会（アンケート実施） ③准看護師交流会（アンケート実施） ④平成28年度准看護師交流会参加者追跡アンケート実施
平成30年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師が専門性を発揮しながらやりがいを持って働き続けることができるよう、看護師職能 I (病院領域)が抱える課題に取り組む。 2. 看護の質向上を図るため、准看護師のスキルアップと進学を支援する。 3. 社会医療制度の動向を踏まえ、看護師職能 I (病院領域)の看護の役割を考え、質向上に向けて検討する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①看護師職能 I (病院領域)集会(アンケート実施) ②看護師職能(領域 I・II)合同交流会(アンケート実施) ③准看護師交流会（アンケート実施）

年 度	テ ー マ	内 容
令和元年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師が専門性を発揮しながら、やりがいを持って働き続けることができるよう、看護師職能 I (病院領域) が抱える課題に取り組む。 2. 看護の質向上を図るため、准看護師のスキルアップと進学を支援する。 3. 社会医療制度の動向を踏まえ、看護師職能 I (病院領域) の看護の役割を考え、質向上に向けて検討する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①看護師職能 I (病院領域) 集会(アンケート実施) ②看護師交流会 (台風被害が発生し中止) ③准看護師交流会 (アンケート実施) ④令和30年度准看護師交流会参加者追跡アンケート実施
令和2年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師が専門性を発揮しながら、やりがいを持って働き続けることができるよう、看護師職能 I (病院領域) が抱える課題に取り組む。 2. 看護の質向上を図るために准看護師のスキルアップと進学を支援する。 3. 社会医療制度の動向を踏まえ、看護師職能 I (病院領域) の看護の役割を考え、質向上に向けて検討する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①看護師職能 I (病院領域) 集会(中止) ②看護師職能 I (病院領域) 交流会(アンケート実施) ③准看護師交流会 (中止) ④令和元年度准看護師交流会参加者追跡アンケート実施
令和3年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師が看護専門職として自信と誇りをもって働き続けられるよう、看護師職能委員会 I (病院領域) が抱える課題に取り組む。 2. 社会医療制度の動向を踏まえ、看護師職能 I (病院領域) の役割を果たすため、看護師職能委員会 I (病院領域) が抱える課題に取り組む。 3. 准看護師の進学を支援する。 4. 会員相互の情報交換を図り、病院間の連携を強化する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①看護師職能 I (病院領域) 集会(アンケート実施) ②看護師職能 I (病院領域) 交流会(アンケート実施) ③准看護師交流会 (アンケート実施)

※准看護師交流会は看護制度の項で掲載

(4) 看護師職能委員会Ⅱ（介護・福祉関係施設・在宅等領域）委員会活動

看護師職能Ⅱ（介護・福祉関係施設・在宅等領域）委員長 小宮山 日登美

看護師Ⅱ（介護・福祉関係施設・在宅等領域）は平成27年より活動を開始しています。この10年は在宅療養推進のもと、看護職は医療機関をはじめ、介護保険事業、障害福祉サービス事業、学校や保育所等、地域の様々な分野で活動するようになりました。また、地域包括ケアシステム構築がうたわれ、制度を超えての協働が推進されています。

加えて近年では「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）」が2012年に、医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律が2021年制定され、障害福祉、療育の視点でも協働の必要性がより取り上げられるようになりました。

そのような地域で活動する看護師職能Ⅱの方々を支援する為に、看護師職能Ⅱ委員会では、現場の課題をとらえ、会長に進言するとともに、課題解決に向けた研修会や情報発信等を行っています。具体的には年に6回の委員会、交流集会・職能集会を年に1回ずつ開催しています。また、情報提供誌「ひまわり」を作成し、看護師職能Ⅱの連携と他領域への広報の為に配布しています。

看護師職能Ⅱは対象となる分野が幅広く、実態の把握が困難な状況です。

地域の施設等において看護職は制度に則り人員配置されていますが、配置が定められていなくても事業所独自のサービスとして在籍している場合があり、県内の全体像が把握できていません。看護師職能Ⅱ領域は、各施設での看護職の人数は少数の場合が多く、課題も多く抱えていると推測します。

そのような状況下ですが、看護師職能Ⅱの発足後、まずは比較的把握しやすい介護保険領域や訪問看護領域を中心に実態把握と課題の収集を行い、前出の集会等のテーマと今後の活動の指標にしています。看護師職能Ⅱ領域での感染対策やリスクマネジメント、ICTの活用等を研修テーマとして情報共有や学習支援し、また、その参加者データ等を分析し、連携に繋げていく予定です。

この数年は自然災害の被害も大きく、地震・台風等の水害・新型コロナウイルスの蔓延等、地域が協力して乗り越えなくてはならない事象が頻発しています。そのような災害時にも地域の各分野の協働が不可欠でしょう。

看護職は各制度等の人員配置基準に則り幅広く配置されているのが強みであり、看護職が制度を超えて「地域で療養している方の看護」を軸に連携を進めることによって、地域包括ケアの推進に大きく寄与できると考えます。

今後の看護師職能Ⅱ委員会活動では、把握している分野の現任教育や現場の課題抽出と共に、まだ連携の取れない分野の実態把握を行い連携の推進を行っていきます。

【看護師職能委員会Ⅱ（介護・福祉関係施設・在宅等領域）活動】

年 度	テ ー マ	活 動 内 容
平成24年度	—	—
平成25年度	—	—
平成26年度	—	—
平成27年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護・福祉関係施設・在宅等領域の看護の役割を考え、看護の質向上に向けた取り組みを行う。 2. 千葉県内の介護施設の実態を把握し、Ⅱ領域の看護師職能が抱える課題を抽出する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①看護師職能(領域Ⅱ)集会(アンケート実施) ②看護師交流会 (アンケート実施) ③実態調査の計画 ④千葉県看護協会等への協力
平成28年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護・福祉関係施設・在宅等領域の看護の役割を考え、看護の質向上に向けた取り組みを行う。 2. 千葉県内の介護施設の実態を把握し、領域Ⅱの看護師職能が抱える課題を抽出する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①看護師職能(領域Ⅱ)集会(アンケート実施) ②看護師交流会 (アンケート実施) ③実態調査の計画
平成29年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護・福祉関係施設・在宅等領域の看護の役割を考え、看護の質向上に向けた取り組みを行う。 2. 千葉県内の介護施設の実態を把握し、領域Ⅱの看護師職能が抱える課題を抽出する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①看護師職能(領域Ⅱ)集会(アンケート実施) ②現状調査
平成30年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 領域Ⅱの看護師がおかれている現状を把握し、領域Ⅱの看護師の抱える課題や悩みを取り上げながら解決に向けた方策を考え、看護協会長への助言を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> ①看護師職能(領域Ⅱ)集会(アンケート実施) ②看護師職能(領域Ⅰ・Ⅱ)合同交流会 (アンケート実施)
令和元年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 領域Ⅱの看護師がおかれている現状を把握し、領域Ⅱの看護師の抱える課題や悩みを取り上げながら解決に向けた方策を考え、看護協会長への助言を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> ①看護師職能Ⅱ集会(アンケート実施) ②看護師職能Ⅱ交流会 (アンケート実施)
令和2年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 領域Ⅱの看護師がおかれている現状を把握し、領域Ⅱの看護師の抱える課題や悩みを取り上げながら解決に向けた方策を考え課題に取り組む。 2. 看護師職能領域Ⅱの看護師の役割の理解と質の向上にむけた取り組みを検討する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①看護師職能Ⅱ集会(中止) ②看護師職能Ⅱ交流会 (アンケート実施) ③季刊誌「ひまわり通信」第1号発刊
令和3年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 領域Ⅱの看護師がおかれている現状を把握し、領域Ⅱの看護師の抱える課題や悩みを取り上げながら解決に向けた方策を考え課題に取り組む。 2. 看護師職能領域Ⅱの看護師の役割の理解と質の向上にむけた取り組みを検討する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①看護師職能Ⅱ集会(アンケート実施) ②看護師職能Ⅱ交流会 (アンケート実施) ③季刊誌「ひまわり通信」第2号発刊

(5) 三職能合同委員会活動

全国的に人口構造や疾病構造の変化に伴う健康問題の複雑・多様化などの看護職を取り巻く環境が大きく変化する中、看護職がその役割を十分に発揮し、医療・保健・福祉サービスを提供するためには、三職能の連携が重要であり、それぞれの活動や役割、課題等を情報交換・共有してさらに専門分野を効果的に活用する事が求められます。また、同じ看護職としての共通の課題の解決のためにも、平成24年度から三職能合同委員会を開催して、各職能委員会の役割と活動実績などの情報交換・共有を実施してきました。さらに、平成25年度には、母子保健法の改正に伴い、複数の事業が市町村に移譲され、一層、三職能がそれぞれの活動領域での専門性の発揮と看護職としての連携・協働が必要とされました。病院・地域・自治体等で活躍する看護職の連携が一層重要になったことを踏まえ、三職能の連携強化を進めるとともに、それぞれの職種が持つ専門性を発揮して県民に対する医療・保健・福祉サービスを提供することで役割を果たすことが出来るように「妊娠・出産から子育てまでをつなぐ看護職連携」をテーマとして、三職能合同集會を開催し、提言「母子保健法の改正と看護職連携」、パネルディスカッション「妊娠・出産から子育てまでをつなぐ看護職連携」、講演「愛と希望の看護」など母子保健活動にまつわる各職域の看護職の連携を図る企画で交流を推進しました。参加者からは、他の領域での活動を知ることができ、連携の重要性を再確認する機会を得ることができ、各地域においても交流が必要であるとの感想も聞かれ好評でした。

一方、日本看護協会では、すでに、看護師職能委員会は領域別に分かれてそれぞれの領域の特徴に合わせた活動が開始されており、当協会でも看護師職能二領域の設置に向けた準備が進められることとなりました。平成27年度からは、三職能二領域の職能委員会において各職能の現状と課題について検討し解決のための対応を進めており、各領域特有の役割・機能を十分に発揮する一方で、各職種共通の解決すべき課題やサービス提供のための連携の強化は一層重要となってきました。

人生100年時代を迎え、治療や療養だけでなく予防や健康づくりの視野に立って、あらゆる生活の場で全世代を対象とした看護の専門性の発揮が必要です。近年の広域災害や長期化する新興感染症への対応においても、看護職の専門性と活動領域での連携による対応の重要性が明らかになりました。

【三職能合同委員会活動】

年 度	活 動 内 容
平成24年度	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度千葉県看護協会の事業について ・職能委員会活動について ・平成24年度各職能委員会活動報告 ・情報交換 ・平成25年度三職能合同委員会について
平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度千葉県看護協会の体制について ・職能委員会活動について ・三職能合同集會打ち合わせ ・三職能合同集會開催

※ 平成26年度以降未開催

2) 千葉県への要望活動

千葉県への要望活動は、毎年、千葉県が次年度の予算編成を行う時期に看護を取巻く課題を整理し、解決のために県の施策として事業展開を要望する事項等を知事宛として取りまとめます。内容は、具体的で実践的なものとし、健康福祉部長や関係課長等を交えて意見交換し、直接手渡して提出をしています。

千葉県の看護職不足は深刻であり、看護職の確保・定着対策が喫緊の課題であることは変わりません。要望項目は毎年類似していますが、その内容は、法律の改正などの国の方針や自治体の各種計画、災害・感染症への対応などの対応すべき課題を踏まえた内容や会員・地区部会等からの提案に、前年度提出の内容とその成果を踏まえて変化をさせています。

そのほか必要時には、予算編成とは別に日本看護協会から厚生労働省への要望や、千葉県医師会や千葉県訪問看護ステーション協会との連名での要望もタイムリーに行いました。

看護職を取巻く社会情勢の変化として、平成24年6月には「医療介護総合確保推進法」が交付され、2025年を見据えた効率的で質の高い医療提供体制の構築と地域包括ケアシステムの構築が進み、医療は「病院完結型」から「地域完結型」へと大きくパラダイムシフトし、看護職も医療機関から暮らしの場へと活躍の場が拡大しました。本県では急激に高齢化が進展し、疾病や障がいを抱える高齢者が増えることが見込まれることから、2025年に向けた看護職の定着・確保対策や地域包括ケアシステムの構築などを要望としました。併せて、少子化が進む中で助産師の適正な配置・活用や保健師の活動推進の体制整備なども要望としました。

また、平成28年度には、看護基礎教育の内容追加と教育時間延長のため、看護師養成の教育年限4年の実現について国に要望していただくことを追加し、現在も継続しています。平成29年度には、准看護師制度の廃止や訪問看護師の処遇改善、養成所の専任教員の基本定数見直しを国への要望として加えました。

令和2年度には、令和元年の台風15号の被害や新型コロナウイルス感染症への対応を受け、次年度予算編成の要望には「災害・感染症に対する体制に整備」を追加し、緊急で対応すべき事項を分けて要望としました。

このような要望の結果、継続的に要望している修学資金制度では、平成25年度300名の対象者数が令和3年度には590名に増加し、令和元年度には特定地域を対象とした「地域特別貸付け」が新設されました。看護師が専門性を発揮し働き続けられる環境づくりの整備に、わずかずつですが前進しています。今後も、職能団体として、より具体的な施策を提言していきます。

千葉県への要望活動

年 度	要 望 事 項 等
平成24年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 千葉県における看護職の確保・定着対策について 2. 在宅医療・訪問看護の推進について 3. 安全・安心な出産環境の確保について 4. 保健師の資質の向上と新たな活動方策の確立について
平成25年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 千葉県における看護職の定着・確保対策の推進 2. 在宅医療・訪問看護の推進 3. 安全・安心な出産環境の確保 4. 保健師の資質の向上と新たな活動方策の確立 5. 医療安全対策の推進 6. 地域医療再生基金活用事業の継続について
平成26年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 千葉県における看護職の定着・確保対策の推進 2. 在宅医療・訪問看護の推進 3. 安全・安心な出産環境の確保 4. 保健師の資質の向上と新たな活動方策の確立 5. 医療安全対策の推進
平成27年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2025年を見据えた看護職の定着・確保対策の推進 2. 地域包括ケアシステムの構築 3. 安全・安心な出産環境の確保 4. 保健師の資質の向上と新たな活動方策の確立 5. 医療安全対策の推進
平成28年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2025年を見据えた看護職の定着・確保対策の推進 2. 地域包括ケアシステムの構築 3. 安全・安心な出産環境の確保 4. 保健師の資質の向上と体制整備 5. 医療安全対策の推進
平成29年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2025年を見据えた看護職の定着・確保対策の推進 2. 地域包括ケアシステムの構築 3. 安全・安心な出産環境の確保 4. 保健師の資質の向上と体制整備 5. 医療安全対策の推進 6. 夜間救急診療の適正利用について 7. 国への要望（准看護師制度の廃止及び養成の停止・訪問看護師の処遇改善及び診療報酬の適正評価・看護師等養成所の運営に関する指導要領の一部改正）
平成30年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2025年を見据えた看護職の定着・確保対策の推進 2. 質の高い看護の提供体制の整備 3. 地域包括ケアシステムの構築の推進
令和元年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2025年を見据えた看護職の定着・確保の推進 2. 質の高い看護の提供体制の整備 3. 地域包括ケアシステムの構築の推進

年 度	要 望 事 項 等
令和 2 年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2025年を見据えた看護職の定着・確保の推進 2. 質の高い看護の提供体制の整備 3. 地域包括ケアシステムの構築の推進 4. 新型コロナウイルス感染症対策にかかる要望（抜粋） <ol style="list-style-type: none"> (1) 自治体主導の情報共有・関係機関連携による迅速な対策の実施 (2) 医療機器・医療材料の安定的な供給体制の整備について (3) 検査体制の体系化 (4) 従事者への補償と精神面への支援 (5) 施設・事業所等の経営健全化への支援 (6) 三密を避けるためのIT化推進及び財政支援 5. 新型コロナウイルス感染症対策に関する要望—日本看護協会同時要望— <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療機関・介護施設・訪問看護事業所等に対する衛生材料の確実な供給 (2) 医療的ケア児を養育する家庭等に対する衛生材料等の確実な供給 (3) 地域における感染管理に関する専門性の高い看護師の活用による体制整備の強化 6. 新型コロナウイルス感染症対応している看護職に対する危険手当の支給等について—日本看護協会同時要望— <ol style="list-style-type: none"> (1) 新型コロナウイルスに感染した患者に対応した、又は対応する可能性が高い看護師一人ひとりに対し、危険手当を吸給されたい。 (2) 上記看護職が帰宅せずホテル等に宿泊した場合、当該看護職（費用負担している医療機関）に対し宿泊費の補助を行っていただきたい。 7. 妊娠中の看護職員の休業に伴う代替職員の確保について—日本看護協会同時要望— 医療機関（病院又は診療所）が妊娠中の看護職員の休業に伴って代替職員を雇用した場合に、その所要経費（賃金等）に対する補助金の支給をお願いしたい。 8. 国の交付金の活用による新型コロナウイルス感染症対応している医師及び看護職員に対する危険手当の支給等について（依頼）—千葉県医師会連名要望— <ol style="list-style-type: none"> (1) 危険手当の支給 (2) 宿泊費の助成 (3) 妊娠中の医師及び看護職員の休業に伴う代替職員の雇用支援 9. 新型コロナウイルス感染症に係るワクチンの訪問看護師等への早期接種に関する要望—千葉県訪問看護ステーション協会連名要望— 訪問看護ステーションの訪問看護師等をワクチンの早期接種医療従事者の範囲に明記し、関係者に周知すること。
令和 3 年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2025年を見据えた看護職の定着・確保の推進 2. 質の高い看護の提供体制の整備 3. 地域包括ケアシステムの構築の推進 4. 災害・感染症に対応する体制整備 5. ナースセンター施設設備に係る要望 県ナースセンターの施設設備の経年劣化・陳腐化が進み、県委託事業の履行等に支障が生じる状況となっており、予算編成にあたり、施設改修及びWeb環境改善等を要望 6. 看護系学校に係る報道内容への対応について（要望） 看護系学校の1年生の4割が自主退学という報道に関し、看護系学校を所管する貴課において早急に事実関係を調査し、適切な対応をお願いいたします。

3) 看護関連施策に対する提言（看護制度）

医療の高度化、患者・家族のニーズの多様化、病院から地域まで活躍の場の拡大等により、看護教育における高度な基礎学力が必要であり、全国的に看護大学が新設されました。一方で、准看護師学校の閉校が進んでおり、県内では看護師等学校養成所の約半数である19校の看護大学が新設され、准看護師学校の閉校は進み4校となりました。

また、看護職の実践能力を獲得するために、自治体保健師の標準的なキャリアラダー、助産師実践能力習熟段階（クリニカルラダーCLOCMiP）、看護師のクリニカルラダー（日本看護協会版）、病院看護管理者のマネジメントラダー（日本看護協会版）などが示され、個人の能力や習熟度に合わせて段階的に資質向上を図ることができるようになりました。

さらに、専門知識を持つ看護職として平成27年から医療行為の一部を手順書によって実施可能とする特定行為研修制度が施行され、研修修了者は専門看護師、認定看護師、認定看護管理者等とともに増加しつつあります。

専門看護師は13分野、認定看護師は特定研修を組み込んでいないA課程21分野、組み込んでいるB課程19分野が設置され、2026年にはA課程の終了が予定されています。令和4年3月末の県内専門看護師は112名、認定看護師は866名が登録されており、各施設においてその専門性を発揮し活躍しています。それぞれの分野での活躍により、その評価の結果として診療報酬の改定・新設につながりました。特に新型コロナウイルス感染症への対応では、感染症看護専門看護師・感染管理認定看護師の活躍は著しく、感染症病棟勤務だけでなく福祉施設等のクラスター発生時の指導や従事者の教育研修など所属施設以外での活動にも従事しました。これを受け、新型コロナウイルス感染症対応の医療機関に限定ではありますが、診療報酬による賃金アップにつながりました。

このような状況を踏まえて、本協会では、重点事業や千葉県知事への要望活動に、専門分野における質の高い看護師の育成と処遇改善、准看護師の養成停止と、停止までの間の進学支援などの項目を明示し、質の高い看護を提供するために積極的に取り組んできました。

看護師職能委員会領域Ⅰでは准看護師の進学支援を目的として、進学課程を経て看護師の資格を得た先輩看護師の体験報告等を交えて、毎年、准看護師交流会を開催しており、令和2年・3年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止や実施方法の変更を余儀なくされましたが、非会員を含めた准看護師が参加しています。

平成27年6月には、看護師職能委員会を領域Ⅰ（病院領域）と領域Ⅱ（介護及び福祉関係施設・在宅等領域）に分けて、それぞれの活動分野特有の課題解決にむけて、活動を開始しました。

また、同年10月には「看護師等の人材確保の促進に関する法律」の改正により、「看護師等の離職時におけるナースセンターへの届出制度」が努力義務化され、届出サイト通称「とどけるん」の運用を開始しました。

本協会は、今後も、安全で安心な質の高い看護を提供するためには、看護基礎教育の4年制化による充実や専門性を発揮する特定行為研修修了者、専門看護師、認定看護師、認定看護管理者等の育成などに積極的に取り組んでいきます。

【准看護師交流会】

年 度	テ ー マ	内 容	参加者
平成24年度	「准看護師のスキルアップ」 —進学について考えませんか—	講演、体験報告、グループワーク	76
平成25年度	「准看護師のステップアップ」	講演、体験報告、グループワーク	73
平成26年度	「准看護師のステップアップ」	講演、看護師養成所における 学習体験(全日制)、グループワーク	27
平成27年度	「准看護師のキャリアアップにむけて」	講演、進学支援：学校教員からの説明	49
平成28年度	「准看護師のキャリアアップにむけて」	講演、進学支援：学校教員などからの 説明、体験談、交流会	57
平成29年度	「准看護師のキャリアアップに向けて」	講演、進学支援情報提供： 学校教員などからの説明、体験談、交流 会	49
平成30年度	「准看護師のキャリアアップに向けて」	講演、体験談、進学支援情報提供： 学校説明会、交流会	37
令和元年度	「准看護師のキャリアアップに向けて」	講演、講話、体験談、グループワーク、 進学支援情報：学校説明会	44
令和2年度	中止		
令和3年度	1. 進学のための情報共有 2. 新型コロナウイルス感染症の特徴 と看護の実際を知る	講演、講話、体験談、 進学支援情報(学校紹介) Web開催	23

7 介護保険法に基づく指定居宅サービス、居宅介護支援に関する事業並びに健康保険法に基づく訪問看護に関する事業

1) 看護協会ちば訪問看護ステーションの運営

平成4年4月から老人保健法の改正に基づきスタートした訪問看護制度は、老人訪問看護ステーションとして始まり、在宅で寝たきりの高齢者を対象にサービスが提供されていきました。その後、平成6年の健康保険法などの改正で、在宅の難病患者や障害者も利用対象となりました。そして、平成12年の介護保険制度設立後、訪問看護は介護保険サービスの一つとして位置づけられています。平成21年からは、介護保険法の「居宅療養管理指導」を実施する者として、訪問看護ステーションの職員が加えられ、看護職と協働して訪問し、在宅療養上の不安や悩みについて相談・支援を行うしくみが整えられました。当ステーションは、国の訪問看護事業の変遷に合わせ、平成6に、ちば老人訪問看護ステーションとして活動を開始しています。平成9年に看護協会ちば訪問看護ステーションと名称を変更し、平成11年に居宅介護事業所を開設しました。地域の在宅で療養される方々に質の高い訪問看護サービスを提供するよう努めています。

国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所の推計（平成25年3月推計）によると、千葉県の高齢者人口は、平成27年度から令和7年度までの間に、65歳以上人口の増加率は全国第5位、75歳以上人口の増加率は全国第1位となることを見込まれています。特に75歳以上の人口は令和7年度時点で100万人を超えると推計されています。また、要介護等認定者数は、平成27年度の24万人が令和7年度には36万人に急増すると見込まれており、このうち、要介護4及び5のいわゆる重度療養者は、平成27年度の5万4千人から令和7年度には7万7千人を超える見込みとなっています。訪問看護事業では、今後さらに、在院日数の短縮化や2025年問題と合わせ、医療ニーズの高い在宅療養者への対応が重要な課題となっています。

看護協会ちば訪問看護ステーションは開設以来、地域に密着した24時間対応の実践と、重度障害を抱える医療依存度の高い療養者を含めた、すべての在宅療養者に対し、質の高い看護を提供するよう努めてまいりました。また、新人看護師の育成や新設ステーションからの研修生の受け入れ、メディカルサポーター（看護師）への実技指導など、訪問看護の普及・推進に貢献しています。令和2年には新型コロナウイルス感染症対策の中、学生や研修生の受け入れ体制を継続していました。受け入れ数（申し込み数）が、一時的に減少しましたがすぐに回復しています。また、協会立の訪問看護ステーションとして果たすべき役割・あり方、及び今後の方向性を示すために、平成28年外部委員を迎え「看護協会ちば訪問看護ステーション運営検討委員会」を設置し、「看護協会ちば訪問看護ステーション未来づくり計画」を策定しました。

この「未来づくり計画」には2つの大きな柱を立てています。ひとつは訪問看護の将来を見据えて公益的・先駆的な取り組みの推進です。訪問看護師の育成と指導機能の強化、訪問看護師の普及拡大を目指し地域ニーズに沿った新しい事業の展開を検討しています。もうひとつは職員が働きやすく、魅力ある職場づくりと経営の安定化です。慢性的な看護師不足と経営の安定は、すべての訪問看護ステーションの課題です。それを協会立のステーションとしてモデルになるよう職務管理と経営戦略を示すよう努力しています。

これからも看護協会ちば訪問看護ステーションは、1人でも多くの方が住み慣れた家や地域でその人らしく生活し、在宅医療をふくめた質の高い在宅ケアを提供出来るよう日々精進していきます。また、訪問看護師を育成と発展を目指し、千葉県看護協会と共に訪問看護総合支援センター事業構想にも取り組んでまいります。

(1) 訪問看護及び居宅介護支援事業

年度	介護保険		医療保険		合計		ケアプラン 件数
	件数	訪問回数	件数	訪問回数	件数	訪問回数	
平成24年	467	2,354	245	2,096	712	4,450	627
平成25年	418	2,293	242	2,220	660	4,513	697
平成26年	416	2,358	326	2,470	742	4,828	668
平成27年	452	2,364	355	2,916	807	5,280	628
平成28年	388	1,928	340	2,454	728	4,382	412
平成29年	431	2,053	425	3,084	856	5,137	378
平成30年	457	2,107	414	2,963	871	5,070	397
令和元年	470	2,279	397	2,824	867	5,103	467
令和2年	557	2,793	358	2,618	915	5,411	201
令和3年	597	2,985	352	2,647	949	5,632	290

(2) 難病・がん患者数と看取り数

年度	延べ訪問人数 (難病+がん)	延べ難病患者数	延べがん患者数	看取り数	
				人数	内在宅の看取り
平成24年	232	149	83	25	16
平成25年	242	179	63	24	13
平成26年	308	224	84	22	11
平成27年	302	233	69	28	12
平成28年	318	251	67	27	17
平成29年	392	303	89	21	11
平成30年	348	236	112	31	14
令和元年	341	224	117	43	18
令和2年	304	221	83	24	9
令和3年	263	195	68	17	10

(3) 緊急訪問の時間帯延件数

時間	6～8時	8～18時	18～22時	22～6時	計
平成24年	3	95	41	26	165
平成25年	5	113	38	14	170
平成26年	1	167	54	22	244
平成27年	13	143	38	51	245
平成28年	12	112	34	21	179
平成29年	5	113	35	27	180
平成30年	5	155	57	29	246
令和元年	30	151	54	30	265
令和2年	9	144	34	34	221
令和3年	11	177	48	29	265

(4) 学生実習・研修受け入れ人数

年度	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
延べ人数	185	207	155	122	161	146	153	200	10	31

8 その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

1) 地区部会活動

地区部会は、県内を12地区に区分し、千葉県看護協会の目的である、看護を通じて県民の健康な生活の実現に貢献するために、看護職の資質の向上を図るための研修会の開催、市町村等行政及び関係団体との連携、また「看護の日・看護週間」事業やまちの保健室事業を通して地域のニーズに応えるなど、県民に近い場所で幅広く活動しています。

研修会は、地域において課題となっている事項や会員等からの要望を踏まえてテーマを立案し、年間計画に基づき開催しています。平成28年からは、県内各地域において医療安全担当者間の情報共有とスキルアップの支援を図るため、医療安全担当者による地区交流会を実施、また、県内の医療安全担当者間の情報共有とスキルアップを支援することにより、県民に安全・安心な質の高い医療・看護を提供することを目的に中央交流会を開催する等、近年では、会員のみを対象にするのではなく、非会員や多職種も参加できる研修会を計画するなど地域のネットワークづくりにも貢献しています。

各地区で開催する看護の日やまちの保健室は、県民に対する直接的な看護活動であり、当該地区部会の拠点となる場所において定例的に開催しています。

「看護の日事業」では、中央行事と地区部会行事を同日に開催していましたが、平成28年度からは、地域の方々が参加しやすく、より地域に密着した事業を展開するため、各地区での特性を活かした地区部会行事のみの開催とし、多い地区では1日に1,000名以上の県民の方々の参加がありました。

また、「まちの保健室」は、常設型と市町村が開催する健康まつり等におけるイベント型の開催とし、健康相談や定期的な血圧測定等により健康生活への意識づけを図るなど、県民の健康保持の一翼を担っています。

令和2・3年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、すべての地区において県民と直接触れ合う行事をはじめ、研修会や地区部会活動の延期・中止を余儀なくされました。そのような状況でも、役員会や連絡会をWeb開催に切り替え、地区部会活動のあり方の検討や施設間の情報交換に努めました。県民には、「看護の日・看護週間」のグッズやポスター・チラシ等を使った広報を実施するなど、コロナ禍において各地区部会でできる活動を考え実施してきました。引き続き感染状況や感染対策を考慮した方法や内容を検討し地区部会の目的が果たせるよう活動を継続していく予定です。

今後も、会員増のための方策の検討や地域の課題解決のため、各地区の特性や保健医療福祉のニーズに添った活動を増やしていけるよう進めてまいります。

(1) 研修会

年度別参加者数

(名)

地区部会名	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	平成 2年度*	平成 3年度*
千葉	165	141	192	175	208	97	101	138	—	—
市原	250	219	217	269	192	249	243	199	—	—
船橋	206	169	192	210	183	258	182	170	—	—
市川	144	89	70	116	130	72	129	55	—	—
松戸	132	109	94	167	152	138	149	289	—	—
東葛	206	226	197	220	243	209	223	228	—	—
印旛	146	144	161	168	191	187	87	85	—	27
利根	259	242	219	229	245	224	261	100	—	—
山武	157	114	91	156	175	183	119	134	—	—
長夷	317	115	113	139	126	152	170	185	—	6
君津	181	130	133	162	168	208	135	85	—	—
安房	142	82	137	115	109	103	106	39	—	—
合計	2,305	1,780	1,816	2,126	2,122	2,080	1,905	1,707	—	33

*令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため研修会の開催なし

*令和3年度は2地区のみWeb開催

(2) 地域における看護活動

① 看護の日週間

(名)

地区部会名	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	平成 2年度*	平成 3年度*
千葉	495	340	共催	1019	331	244	365	284	—	—
市原	329	748	652	788	1,108	1,281	894	765	—	—
船橋	1,047	870	762	1,187	1,186	986	986	1,026	—	—
市川	306	340	128	200	293	212	232	275	—	—
松戸	273	381	629	619	467	208	50	373	—	—
東葛	132	390	484	352	383	322	608	768	—	—
印旛	386	329	233	320	436	423	420	314	—	—
利根	789	1,335	1,033	905	917	1,264	1,139	1,182	—	—
山武	334	302	520	584	865	496	533	494	—	—
長夷	717	347	446	510	609	495	160	397	—	—
君津	258	391	631	711	406	595	819	497	—	—
安房	526	721	387	394	264	304	204	157	—	—
合計	5,592	6,494	5,905	7,589	7,265	6,830	6,410	6,532	—	—

*平成28年度より県内各地区部会同時開催

*令和2・3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催なし

② まちの保健室（常設型）

(名)

地区部会名	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	平成 2年度*	平成 3年度*
千葉	228	167	133	109	132	70	40	—	—	—
市原	270	443	603	269	390	407	325	432	—	—
船橋	660	0	0	174	222	160	120	45	—	—
市川	569	452	382	368	348	219	240	255	—	—
松戸	23	0	0	32	35	28	146	245	—	—
東葛	1,091	841	799	830	1,317	1,525	1,641	1,222	—	—
印旛	1,620	1,769	1,941	1,455	1,549	1,418	1,214	1,145	—	—
利根	542	749	621	430	800	753	1,137	825	—	—
山武	328	254	188	78	339	431	478	423	—	—
長夷	834	319	96	39	61	75	51	57	—	—
君津	192	236	232	258	239	203	215	345	—	—
安房	73	148	99	106	119	82	48	22	—	—
合計	6,430	5,378	5,094	4,148	5,551	5,371	5,655	5,016	—	—

*令和2・3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催なし

2) 理事会の運営

理事会は、総会で選出された理事をもって構成し、事業・決算報告や事業計画及び予算などの総会に付議すべき事項、事業の執行に関する事項や事務局の組織等について協議することが定款に規定されています。

理事会における協議事項を振り返ると、訪問看護や災害対策の充実に向けた新たな取り組み等がみられます。

また、最近2年間は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、定時総会の運営方法の変更、生涯教育研修計画の見直し等を余儀なくされています。

各年度の主な協議事項は、次の通りでした。なお、前述の既定の協議項目は除いています。

年 度	回 数	主 な 協 議 事 項
平成24年度	8	訪問看護実践センター事業について 災害支援ナースの体制整備（登録等）について
平成25年度	7	看護会館等の資産取得資金の積み立てについて もばら訪問看護ステーションの取り扱いについて 年度途中で他県から移動してきた会員の年会費の免除について
平成26年度	7	看護師職能委員会の領域による区分について
平成27年度	7	訪問看護用車両運搬具取得資産の積立計画の中止及び目的外取り崩しについて
平成28年度	6	災害対策委員会（特別委員会）の設置及び運営規程について
平成29年度	6	千葉県看護会館別館の一部貸付について
平成30年度	7	常任委員会（災害対策委員会）の設置について
令和元年度	6	災害見舞金の給付について 公益社団法人千葉県看護協会看護学生表彰規程について
令和2年度	7	令和2年度定時総会の運営方法の変更について 令和2年度定時総会における書面による議決権の行使について 令和2年度推薦委員選挙における投票について 令和2年度生涯教育研修計画の変更について
令和3年度	7	令和3年度定時総会の運営方法の変更について 令和3年度定時総会における書面による議決権の行使について 令和3年度推薦委員選挙における投票について 寄附金の使途等について

9 会員数の推移

令和4年3月31日

年度	会員総数	保健師		助産師	看護師		准看護師		うち 新入会員	増減値
		女	男		女	男	女	男		
昭和57年	4,647									
58	5,788	504		193	3,766		1,325		1,170	1,141
59	6,169	471		212	4,172		1,314		1,287	381
60	6,446	504		235	4,378		1,329		1,174	277
61	6,752	517		238	4,632		1,365		1,106	306
62	7,219	538		285	4,920		1,476		1,146	467
63	8,002	561		313	5,585		1,543		1,527	783
平成元年	8,393	554		331	5,959		1,549		1,403	391
2	8,533	566		355	6,144		1,468		1,250	140
3	8,782	591		376	6,381		1,434		1,320	249
4	9,196	610		387	6,730		1,469		1,518	414
5	9,777	635		414	7,305		1,423		1,608	581
6	10,632	665		451	7,932	131	1,422	31	1,869	855
7	11,473	670		478	8,683	135	1,477	30	1,832	841
8	12,268	685		501	9,342	151	1,557	32	1,803	795
9	13,126	710	1	514	10,096	173	1,599	33	1,911	858
10	14,044	730	2	521	10,965	192	1,602	32	1,980	918
11	14,643	739	4	517	11,590	210	1,548	35	2,006	599
12	15,190	701	5	530	12,114	249	1,558	33	2,001	547
13	15,990	669	4	547	12,785	280	1,659	46	2,000	800
14	16,748	657	4	544	13,331	345	1,814	53	1,591	758
15	17,816	655	6	561	14,221	441	1,882	50	2,457	1,068
16	18,924	664	10	591	15,059	507	2,025	68	2,677	1,108
17	19,388	649	11	604	15,557	577	1,926	64	2,232	464
18	19,467	613	14	584	15,727	636	1,819	74	2,052	79
19	20,173	619	20	635	16,404	687	1,730	78	2,307	706
20	20,790	593	23	660	16,916	801	1,729	68	2,495	617
21	21,446	552	27	628	17,510	933	1,728	68	2,438	656
22	22,075	528	33	648	18,123	1,064	1,606	73	2,386	629
23	22,730	513	26	672	18,701	1,208	1,546	64	2,437	655
24	23,160	522	22	662	19,129	1,334	1,422	69	2,382	430
25	24,135	489	20	701	20,038	1,474	1,345	68	2,616	975
26	24,967	482	26	754	20,760	1,600	1,278	67	2,873	832
27	25,595	460	27	758	21,320	1,762	1,191	77	2,718	628
28	26,143	439	30	790	21,804	1,886	1,119	75	2,817	548
29	26,780	427	34	820	22,383	2,008	1,030	78	2,744	637
30	28,061	425	41	877	23,455	2,154	1,033	76	2,605	1,281
令和元年	28,779	419	37	905	24,066	2,257	1,015	80	2,667	718
2年	28,833	407	38	902	24,185	2,299	925	77	2,517	54
3年	28,794	385	34	908	24,198	2,343	858	68	2,297	△ 39

10 収支決算の推移

千葉県看護協会全体

(円)

年 度	収入合計	支出合計	次期繰越収支差額
平成24年度	470,001,962	399,581,847	70,420,115
平成25年度	516,864,094	455,665,999	61,198,095
平成26年度	391,195,273	475,805,846	△ 84,610,573
平成27年度	391,529,299	378,498,049	13,031,250
平成28年度	377,027,515	354,561,923	22,465,592
平成29年度	405,004,664	360,809,536	44,195,128
平成30年度	398,744,569	357,629,930	41,114,639
令和元年度	429,272,558	371,899,402	57,373,156
令和2年度	352,199,467	331,175,637	21,023,830
令和3年度	422,544,111	388,517,138	34,026,973

公益目的事業会計

(円)

年 度	収入合計	支出合計	次期繰越収支差額
平成24年度	382,066,474	337,536,544	44,529,930
平成25年度	422,574,809	374,569,029	48,005,780
平成26年度	292,637,141	400,187,710	△ 107,550,569
平成27年度	294,150,760	335,169,625	△ 41,018,865
平成28年度	275,521,718	306,808,557	△ 31,286,839
平成29年度	302,917,255	313,985,267	△ 11,068,012
平成30年度	292,257,777	309,055,980	△ 16,798,203
令和元年度	317,265,830	315,977,179	1,288,651
令和2年度	246,533,533	281,993,525	△ 35,459,992
令和3年度	316,411,419	340,147,357	△ 23,735,938

収益事業等会計

(円)

年 度	収入合計	支出合計	当期経常増減額
平成24年度	2,209,725	2,342,082	△ 132,357
平成25年度	2,924,694	6,617,310	△ 3,692,616
平成26年度	2,752,553	5,047,455	△ 2,294,902
平成27年度	2,318,948	6,900,645	△ 4,581,697
平成28年度	5,265,547	8,654,297	△ 3,388,750
平成29年度	5,606,337	9,037,626	△ 3,431,289
平成30年度	6,034,293	8,722,761	△ 2,688,468
令和元年度	9,498,801	14,228,788	△ 4,729,987
令和2年度	4,476,400	9,528,445	△ 5,052,045
令和3年度	5,018,095	9,685,024	△ 4,666,929

法人会計

(円)

年 度	収入合計	支出合計	次期繰越収支差額
平成24年度	85,725,763	59,703,221	26,022,542
平成25年度	91,364,591	74,479,660	16,884,931
平成26年度	95,805,579	70,570,681	25,234,898
平成27年度	95,059,591	36,427,779	58,631,812
平成28年度	96,240,250	39,099,069	57,141,181
平成29年度	96,481,072	37,786,643	58,694,429
平成30年度	100,452,499	39,851,189	60,601,310
令和元年度	102,507,927	41,693,435	60,814,492
令和2年度	101,189,534	39,653,667	61,535,867
令和3年度	101,114,597	38,684,757	62,429,840



V 叙勲・表彰

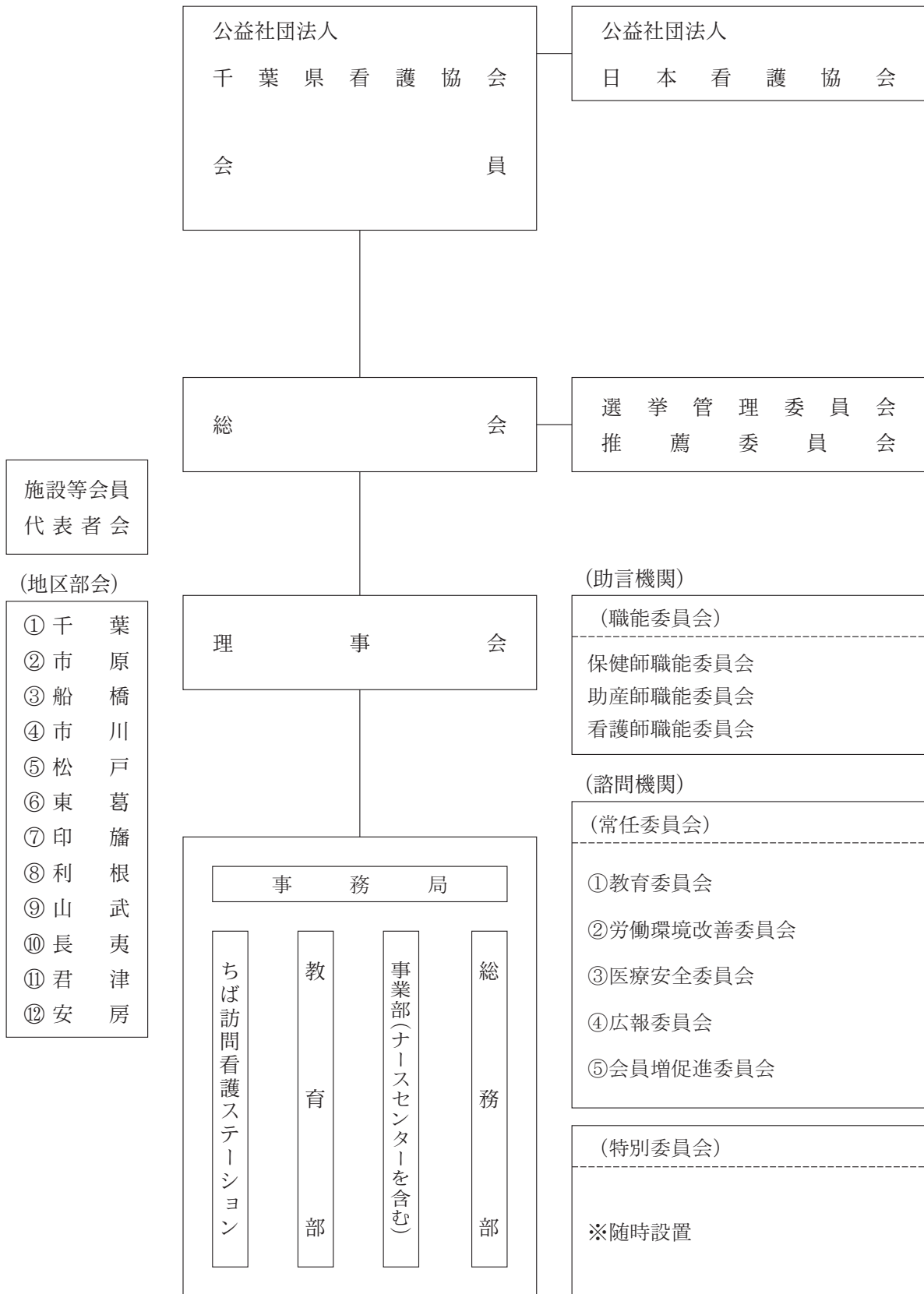
表彰区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
叙 勲	松田 恵子 浅野 直江 小西 洋子 小川 きみ代 山津田 太子 飯沼 君子	吉野 玲子 浅倉 恵子 齋藤 葉子 櫻井 マツ子	佐藤 静子 冲山 洋子 武藤 久子 笹本 喜美江	梅田 睦子 久我 愛子 藤部 なおみ	許斐 玲子 佐藤 るみ子 須賀井 雅子 鈴木 由美子 栗原 サキ子 中村 初音
厚生労働大臣表彰	優良看護職員 渡邊 千恵子 嶋村 有子 石渡 祥子		公衆衛生事業功労者 澤田 いつ子	公衆衛生事業功労者 寺島 正子	
千葉県看護功労者知事表彰	和泉澤 敏枝 伊藤 幸子 木内 弘子 小林 恵子 櫻井 實 千田 眞智子 徳山 憲子 橋野 恭子 長谷 アサ子 塙 節子 比良山 なか 平山 眞理子 松本 恵美子 安井 美和子	伊藤 和子 小川 久子 加藤 きよ子 菊池 眞知子 小池 文江 小谷 美千子 許斐 玲子 齋藤 クニヨ 齋藤 啓子 桜庭 和子 笹本 喜美江 中村 美代子 能戸 孝子 宮内 利律子 宮野 美代子 山田 みどり 山本 則子 横村 妙子 吉田 あや子 竜崎 千代子	飯泉 良枝 大沼 順子 勝又 泰子 小島 英子 櫻井 和子 鈴木 とよ子 鈴木 文江 関川 文代 塚原 信江 松永 敏子 森岡 しずか	石原 照子 泉山 明美 伊藤 かづ子 遠藤 みさを 加藤 早苗 小暮 美子 齊藤 みち子 齋藤 洋子 濱石 ミチ子 藪田 京子 山口 由美子 渡邊 零子	河野 鈴子 鈴木 節子 石渕 夏子 善浪 正子 宮本 祐子 田尻 雅子 寺口 恵子 多田 節子 菅谷 秋子 青木 和代子 越川 則子 渡辺 郁子 山口 幸恵子 石井 幸子 原 洋子
日本看護協会会長表彰	小暮 美子 滝口 容子 藤澤 里子 山下 朱實	石井 邦子 伊藤 和子 大木 信子 齋藤 セツ子	山木 まさ 平山 眞理子 竹内 美佐子 川井 文子	星野 恵美子 福留 浩子 橋野 恭子 伊藤 恵美子 石井 久美子	石渕 夏子 小賀坂 好子 澤田 いつ子 寺口 恵子 増渕 美恵子
千葉県看護協会会長表彰	185名	193名	231名	228名	195名

表彰区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
叙 勲	宮 沼 順 子 園 田 満 子 太 田 茂 伊 藤 時 子 松 本 幸 子 山 本 美佐江	伊 藤 幸 子 平 山 眞理子 稲 田 美枝子 久 保 悦 子 宮 本 ひろ子 高 梨 希 子	鎌 田 良 子 小 池 文 江 小 谷 美千子 平 山 亨 子 河 野 鈴 子 武 田 峰 子 吉 田 あや子	菊 池 眞知子 濱 野 孝 子 横 村 妙 子 竜 崎 千代子 今 野 恵美子	中 村 正 美 小 島 英 子 勝 又 泰 子
厚生労働大臣表彰	優良看護職員 石 井 邦 子 小 島 英 子 泉 山 明 美 宮 本 祐 子 菅 田 秋 子 公衆衛生事業功労者 石 川 さゆり 宮 本 幸 枝 井 上 恵 子	公衆衛生事業功労者 金 子 恵 子 母子保健家族計画事業功労者 山 根 容 子	公衆衛生事業功労者 大 場 有 功 母子保健家族計画事業功労者 岡 田 明 子	公衆衛生事業功労者 市 川 滋 子	公衆衛生事業功労者 久保木 知 子 宇 崎 めぐみ
千葉県看護功労者知事表彰	大 木 信 子 大 橋 富 子 小出田 紀 子 中 島 恵美子 須 田 峰 子 永 江 咲 子 三 枝 多可子 内 田 菊 江 八 木 美恵子 茅 森 芳 美	猪 野 美佐緒 岩 澤 紀 子 大 澤 豊 子 小 田 美代子 金 澤 美智子 木 村 五 子 佐 藤 すみえ 鈴 木 美喜子 鈴 木 康 子 遠 山 美智子 響 谷 順 子 増 渕 美恵子 松 井 聖 子 三 浦 美樹子 宮 本 みづ江 渡 辺 かをる	安 藤 京 子 市 川 智 子 伊 藤 恵 美 伊 藤 久美子 大 木 百合子 影 山 栄 子 小賀坂 好 子 小 森 恵美子 齊 藤 静 江 篠 塚 民 江 鈴 木 浮 子 秦 野 康 子 三 浦 亮 子 若 菜 幸 子 和 田 弘 子 山 田 成 子	青 木 富士子 青 木 美智子 阿 曾 久 範 江 橋 延 江 大 泉 まゆみ 権 平 くみ子 三 平 清 美 滝 口 容 子 竹 内 美佐子 田 村 弘 子 花 里 美 雪 藤 岡 優 子 家 守 絹 枝	雨 宮 英 樹 池 崎 陽 子 石 野 恵 子 市 原 京 子 大 塚 玲 子 小 高 美津子 金 剛 はるみ 京 谷 みよ子 久 保 ひろみ 篠 塚 信 子 祐 川 晃 子 田 口 真由美 竹 内 純 子 眞 鍋 政 子 山 崎 ゆかり 吉 村 靖 子
日本看護協会会長表彰	杉 本 龍 子 大 澤 豊 子 石 井 市 枝 松 丸 雪 江 村 山 敦 子	泉 山 明 美 伊 藤 さよ子 大 木 百合子 寺 島 正 子 長谷川 美 穂	伊 藤 淳 子 尾 出 眞理子 田 辺 悦 子 西 方 恭 子 村 杉 由 美	大 坂 美 穂 齋 藤 洋 子 鈴 木 たまえ 高 井 孝 子 中 島 恵美子	石 原 照 子 内 山 弘 子 田 家 好 美 藤 枝 純 子 山 崎 潤 子
千葉県看護協会会長表彰	230名	299名	315名	272名	281名

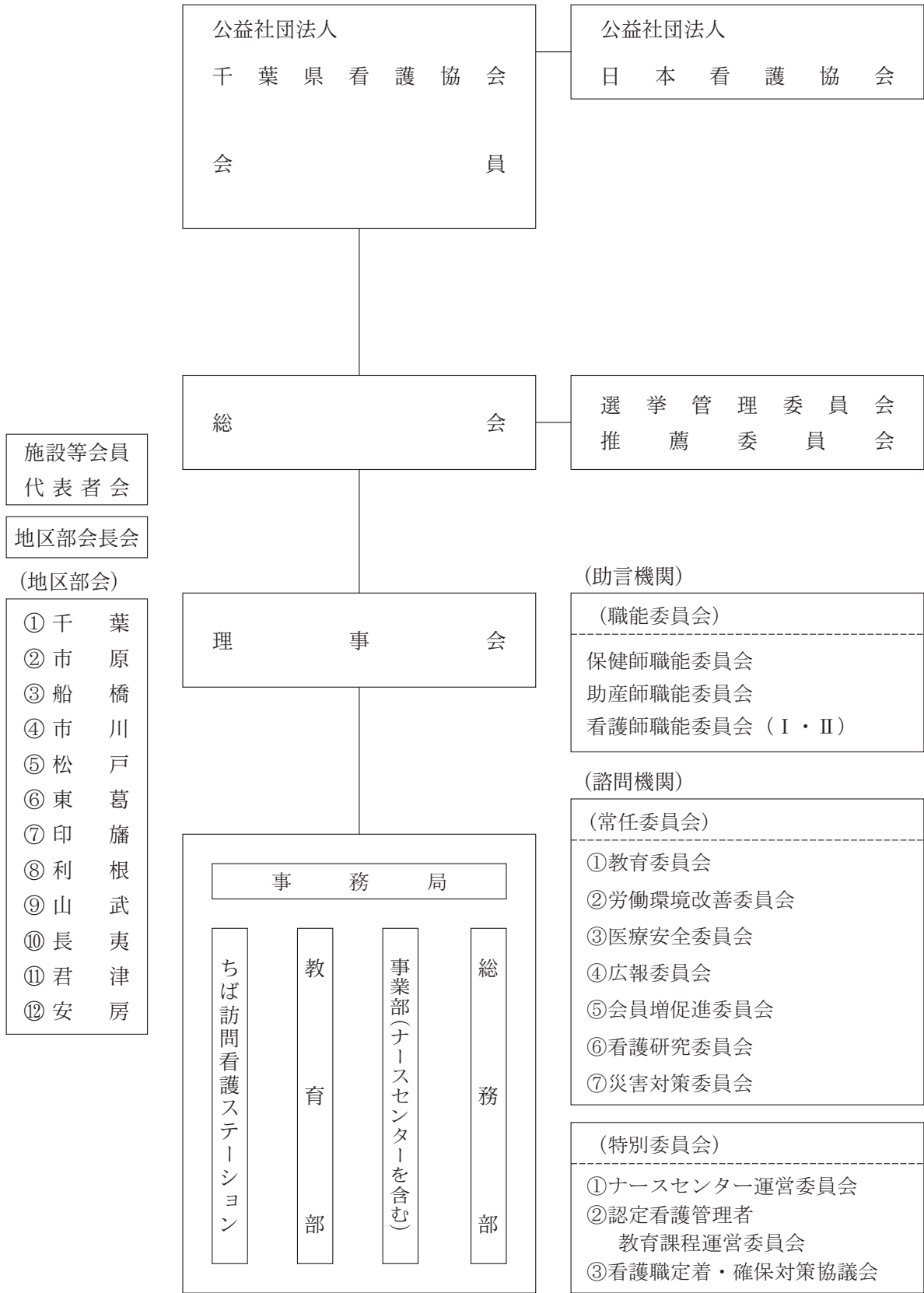


VI 協会組織機構と事業に貢献した会員等

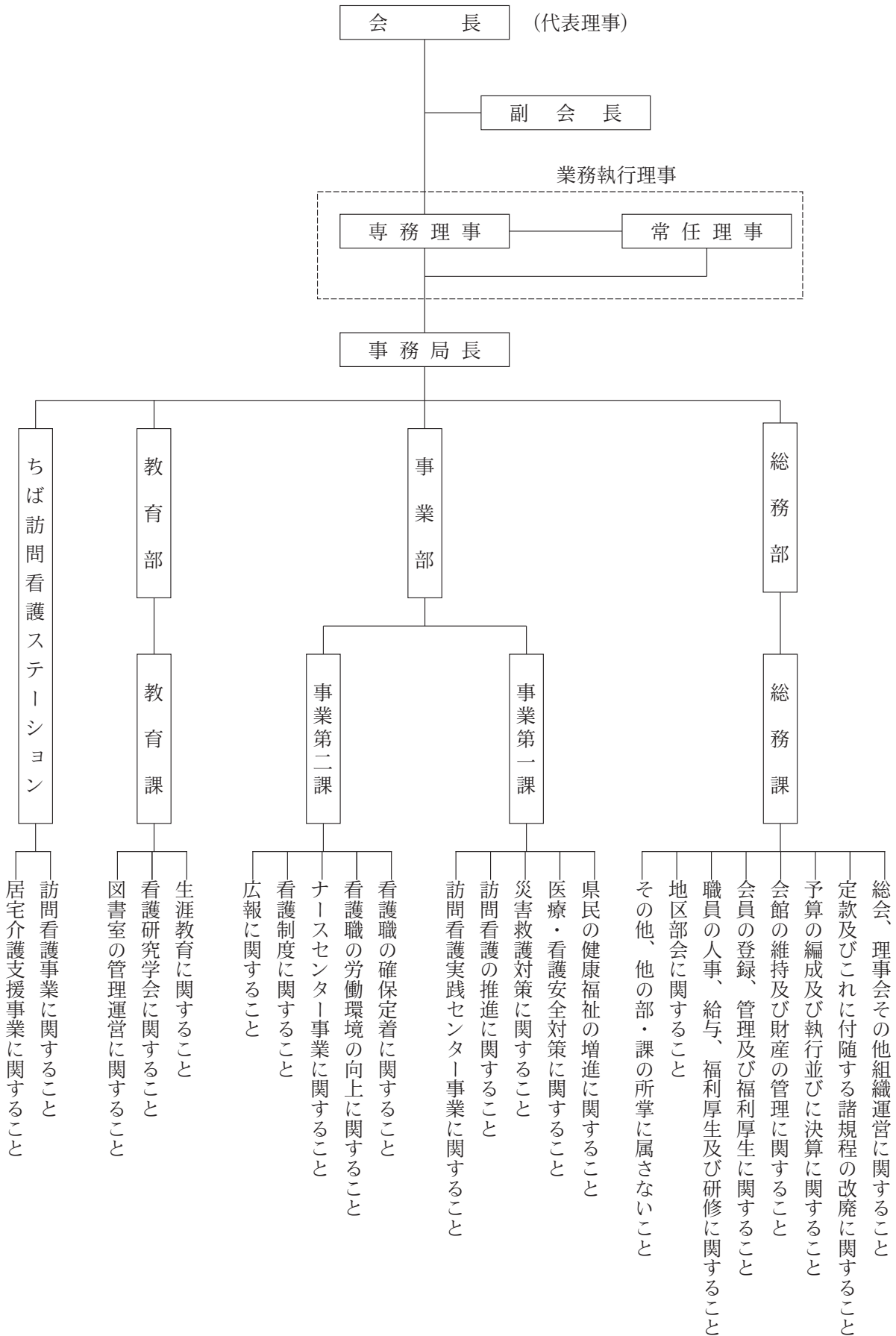
平成24年度 公益社団法人千葉県看護協会 組織機構図



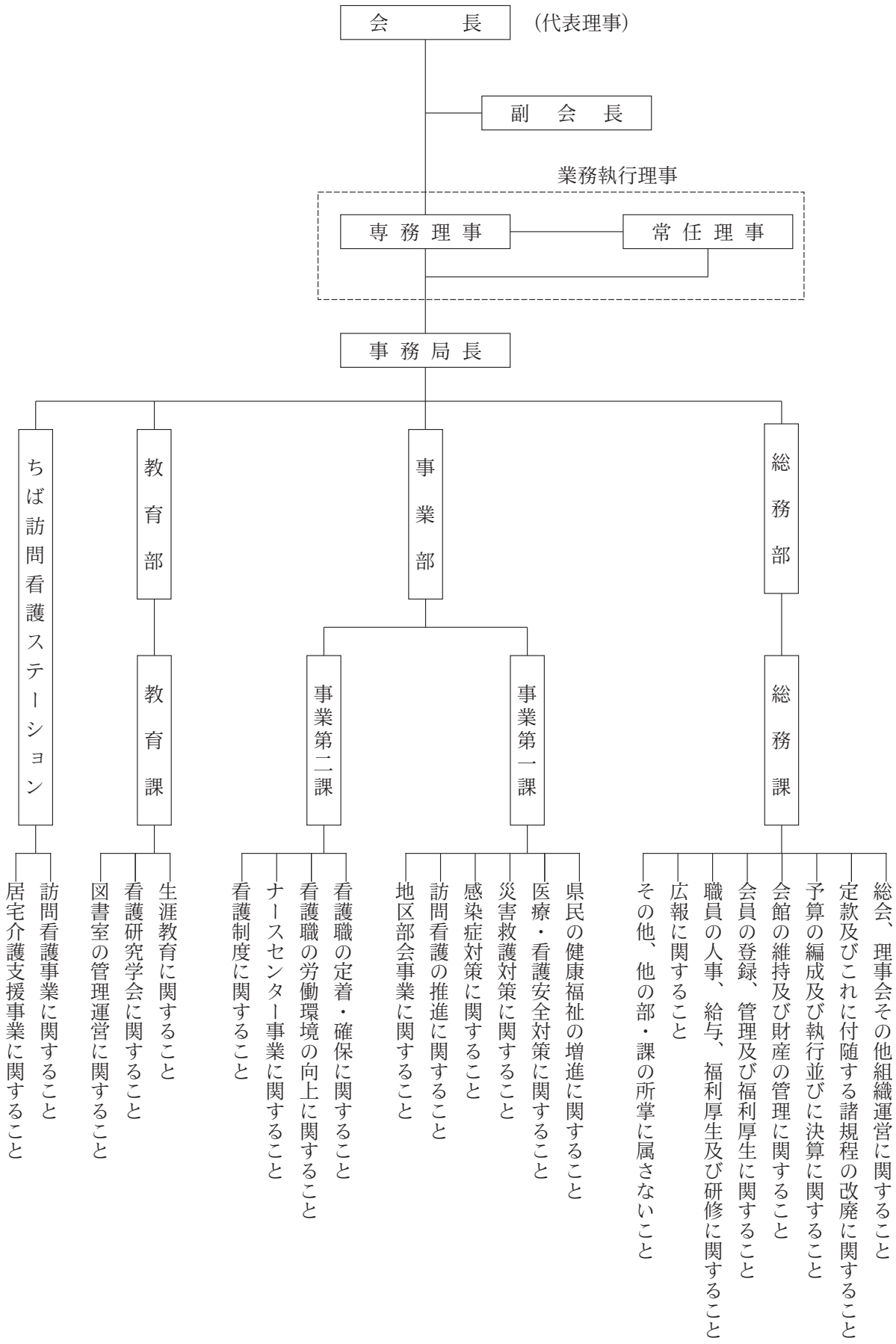
令和3年度 公益社団法人千葉県看護協会 組織機構図



平成24年度 公益社団法人千葉県看護協会 組織運営図



令和3年度 公益社団法人千葉県看護協会 組織運営図



2 理事・監事

役名/年度	平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
会長	保	松永 敏子	保	松永 敏子	看	星野恵美子	看	星野恵美子	看	星野恵美子
副会長	助	石井 邦子	助	石井 邦子	助	石井 邦子	助	石井 邦子	助	石井 邦子
副会長	看	石渡 祥子	看	石渡 祥子	看	石渡 祥子	看	石渡 祥子	看	石渡 祥子
専務理事	保	山木 まさ	保	澤田いつ子	保	澤田いつ子	保	澤田いつ子	保	澤田いつ子
常任理事	看	杉本 龍子	看	杉本 龍子	保	福留 浩子	保	福留 浩子	保	福留 浩子
常任理事	看	星野恵美子	看	星野恵美子	助	橋野 恭子	助	橋野 恭子	看	寺口 恵子
(保)職能理事	保	寺島 正子	保	中村 知江	保	中村 知江	保	石井 市枝	保	石井 市枝
(助)職能理事	助	橋野 恭子	助	橋野 恭子	助	大澤 豊子	助	大澤 豊子	助	大澤 豊子
(看)職能理事 (領域Ⅰ)	看	寺口 恵子	看	寺口 恵子	看	寺口 恵子	看	寺口 恵子	看	荒木 暁子
(看)職能理事 (領域Ⅱ)		—		—		—	看	山崎 潤子	看	山崎 潤子
理事	保	大木 信子	保	大木 信子	保	小賀坂好子	保	小賀坂好子	保	小賀坂好子
理事	保	福留 浩子	保	福留 浩子	助	増渕美恵子	助	増渕美恵子	助	増渕美恵子
理事	助	齊藤セツ子	保	小賀坂好子	看	大矢 智子	看	小暮 美子	看	小暮 美子
理事	看	石井 崇子	助	増渕美恵子	看	鈴木眞奈美	看	伊藤 恵美	看	伊藤 恵美
理事	看	許斐 玲子	看	平山眞理子	看	小暮 美子	看	谷口由紀子	看	石井久美子
理事	看	平山眞理子	看	長谷川美穂	看	伊藤 恵美	看	石井久美子	看	佐塚みさ子
理事	看	山下 諄子	看	泉山 明美	看	谷口由紀子	看	伊藤 幸子	看	伊藤 淳子
理事	看	長谷川美穂	看	大矢 智子	看	石井久美子	看	佐藤 絹代	看	尾出眞理子
理事	看	泉山 明美	看	鈴木眞奈美	看	伊藤 幸子	准	高津さち子	准	山口 規予
理事	准	村杉 由美	准	村杉 由美	准	高津さち子		—		—
監事	—	清水 延郎	—	清水 延郎	—	清水 延郎	—	飯塚 忠義	—	飯塚 忠義
監事	保	伊藤 和子	看	小川 久子	看	石渕 夏子	看	石渕 夏子	看	石渕 夏子
監事	看	小川 久子	看	石渕 夏子	保	松永 敏子	保	松永 敏子	保	松永 敏子

役名/年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
会長	看 星野恵美子	看 寺口 恵子	看 寺口 恵子	看 寺口 恵子	看 寺口 恵子
副会長	看 石渡 祥子	看 浅野美知恵	看 浅野美知恵	助 増渕美恵子	看 浅野美知恵
副会長	看 浅野美知恵	助 増渕美恵子	助 増渕美恵子	看 浅野美知恵	助 増渕美恵子
専務理事	保 澤田いつ子	保 澤田いつ子	保 井上 恵子	保 井上 恵子	保 井上 恵子
常任理事	保 福留 浩子	保 福留 浩子	保 福留 浩子	看 内山 弘子	看 渡辺 尚子
常任理事	看 寺口 恵子	看 内山 弘子	看 内山 弘子	看 渡辺 尚子	看 長谷川美穂
(保)職能理事	保 川名 千春	保 川名 千春	保 宇崎めぐみ	保 宇崎めぐみ	保 久保木知子
(助)職能理事	助 大澤 豊子	助 大澤 豊子	助 大澤 豊子	助 青木 康子	助 青木 康子
(看)職能理事 (領域Ⅰ)	看 高井 孝子	看 高井 孝子	看 高井 孝子	看 田中 且子	看 田中 且子
(看)職能理事 (領域Ⅱ)	看 許斐 玲子	看 許斐 玲子	看 許斐 玲子	看 許斐 玲子	看 小宮山日登美
理事	保 小賀坂好子	保 小賀坂好子	看 田口真由美	看 田口真由美	看 伊藤 淳子
理事	助 増渕美恵子	助 金澤 薫	看 石井久美子	看 久保ひろみ	看 鈴木美智子
理事	看 小暮 美子	看 石井久美子	看 佐塚みさ子	看 伊藤 淳子	看 田口真由美
理事	看 伊藤 恵美	看 佐塚みさ子	看 伊藤 淳子	看 鈴木美智子	看 久保ひろみ
理事	看 石井久美子	看 伊藤 淳子	看 久保ひろみ	看 高柴 律子	看 高柴 律子
理事	看 佐塚みさ子	看 大坂 美穂	看 鈴木美智子	看 川井 弘子	看 川井 弘子
理事	看 伊藤 淳子	看 栗原サキ子	看 栗原サキ子	看 遠山美智子	看 遠山美智子
理事	看 大坂 美穂	看 加納佳代子	看 加納佳代子	看 神明 直美	看 神明 直美
理事	准 山口 規予	准 山口 規予	准 山口 規予	准 上原亜希子	准 上原亜希子
理事	—	—	—	—	—
監事	— 飯塚 忠義	— 飯塚 忠義	— 飯塚 忠義	— 飯塚 忠義	— 青木 隆
監事	保 松永 敏子	保 松永 敏子	保 松永 敏子	看 石井 崇子	看 石井 崇子
監事	看 石井 崇子	看 石井 崇子	看 石井 崇子	保 澤田いつ子	保 澤田いつ子

3 職能委員会

保健師職能委員会										
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
委員長	寺島 正子	中村 知江	中村 知江	石井 市枝	石井 市枝	川名 千春	川名 千春	宇崎めぐみ	宇崎めぐみ	久保木知子
委員	久保木知子	島村美恵子	塚田 真澄	河野 好美	河野 好美	河野 好美	河野 好美	河野 好美	雨宮 有子	宇井 教恵
委員	加藤岡知子	土屋 裕子	河野 享子	吉住 次恵	吉住 次恵	吉住 次恵	雨宮 有子	雨宮 有子	児玉 一世	細川 倫子
委員	浦 昌子	小島 玲子	河野 好美	友野 和江	雨宮 有子	雨宮 有子	山本 裕香	片野 園子	中村 早苗	小関 寿江
委員	島村美恵子	塚田 真澄	吉住 次恵	雨宮 有子	吉水 雅子	平塚百合子	篠崎 久美	林 敦子	山本 節子	大場 有功
委員	土屋 裕子	河野 享子	友野 和江	吉水 雅子	岸 恵美子	山本 裕香	片野 園子	児玉 一世	宇井 教恵	照沼 理恵
委員	小島 玲子	市川 滋子	鈴木由紀子	岸 恵美子	平塚百合子	篠崎 久美	林 敦子	中村 早苗	細川 倫子	原田 静香

助産師職能委員会										
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
委員長	橋野 恭子	橋野 恭子	大澤 豊子	大澤 豊子	大澤 豊子	大澤 豊子	大澤 豊子	大澤 豊子	青木 康子	青木 康子
委員	鈴木とく子	鈴木とく子	鈴木とく子	鈴木とく子	鈴木とく子	根岸 暢子	根岸 暢子	久保 幸代	宮 真由美	川城由紀子
委員	大和田達代	林 ひろみ	林 ひろみ	小鹿原 泉	根岸 暢子	小野真由美	久保 幸代	宮 真由美	川城由紀子	富樫 嘉子
委員	響谷 順子	古畑 幸子	小鹿原 泉	根岸 暢子	小野真由美	久保 幸代	田中ひろ子	川城由紀子	富樫 嘉子	吉田 舞
委員	林 ひろみ	前田 広美	根岸 暢子	小野真由美	久保 幸代	田中ひろ子	溝口 美穂	富樫 嘉子	吉田 舞	森田 桂子
委員	古畑 幸子	小鹿原 泉	小野真由美	久保 幸代	元吉美津江	溝口 美穂	宮 真由美	青木 康子	清水 清美	清水 清美
委員	前田 広美	根岸 暢子	久保 幸代	元吉美津江		宮 真由美	川城由紀子	吉田 舞	森田 桂子	堀 瑞美

看護師職能委員会			
	平成24年度	平成25年度	平成26年度
委員長	寺口 恵子	寺口 恵子	寺口 恵子
委員	村山 敦子	徳重 敬子	徳重 敬子
委員	徳重 敬子	岩船 久子	岩船 久子
委員	岩船 久子	長島 恭子	小林 美紀
委員	小林 美紀	小林 美紀	増田由美子
委員	長島 恭子	菅野 章子	薄井 敏憲
委員	菅野 章子	山崎 潤子	飯田 結花
委員	山崎 潤子	河田 好美	大澤 通子
委員	河田 好美	増田由美子	山崎 潤子
委員		川端 心	川端 心
委員		伊藤かづ子	伊藤かづ子
委員		谷中 嘉子	谷中 嘉子

看護師師職能委員会（領域Ⅰ）							
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
委員長	寺口 恵子	荒木 暁子	高井 孝子	高井 孝子	高井 孝子	田中 且子	田中 且子
委員	薄井 敏憲	薄井 敏憲	薄井 敏憲	関 江里子	芝崎 絵里	棚橋智都江	棚橋智都江
委員	飯田 結花	完戸 香	猪俣 英子	清水 葉子	須貝智津江	長嶋 美佳	京谷みよ子
委員	大澤 通子	古川真智子	高瀬 峰子	成清 浩子	棚橋智都江	五十嵐ゆき江	福森 明美
委員	完戸 香	金綱はるみ	関 江里子	森岡ひとみ	長嶋 美佳	福森 明美	清宮 裕美
委員	古川真智子	白井美由紀	清水 葉子	芝崎 絵里	五十嵐ゆき江	清宮 裕美	安田 友恵
委員	金綱はるみ	猪俣 英子	成清 浩子	須貝智津江	宮本 雅子	京谷みよ子	笹嶋 法恵
委員	白井美由紀	高瀬 峰子	森岡ひとみ	棚橋智都江	板倉さゆり	板倉さゆり	後藤 憲太

看護師師職能委員会（領域Ⅱ）							
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
委員長	山崎 潤子	山崎 潤子	許斐 玲子	許斐 玲子	許斐 玲子	許斐 玲子	小宮山日登美
委員	川端 心	川端 心	川端 心	窪田 妙子	竹俣 幸江	星野真理子	庄司美佐子
委員	伊藤かづ子	窪田 妙子	窪田 妙子	竹俣 幸江	川名 順子	庄司美佐子	西山めぐみ
委員	谷中 嘉子	英 香代子	竹俣 幸江	川名 順子	星野真理子	西山めぐみ	館野 薫
委員	窪田 妙子	高角 好子	川名 順子	尾崎 直子	庄司美佐子	館野 薫	峯 由紀子
委員	英 香代子	竹俣 幸江	尾崎 直子	星野真理子	西山めぐみ	峯 由紀子	柴崎ゆかり
委員	高角 好子	川名 順子	星野真理子	庄司美佐子	館野 薫	柴崎ゆかり	岩井由希子

4 常任委員会

教育委員会										
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
委員長	看 石井 崇子	助 増渕美恵子	助 増渕美恵子	助 増渕美恵子	助 増渕美恵子	助 増渕美恵子	看 大坂 美穂	看 田口真由美	看 田口真由美	看 田口真由美
副委員長	看 上田 貴子	看 大矢 智子	看 大矢 智子	看 荒木 暁子	看 大西 淳子	看 大西 淳子	看 大西 淳子	看 大西 淳子	看 竹中 敦子	看 竹中 敦子
委員	看 飯塚 恵子	看 飯塚 恵子	看 荒木 暁子	看 大西 淳子	看 菅谷 郁子	看 菅谷 郁子	看 久保ひろみ	看 岩田 好恵	看 岩田 好恵	看 岩田 好恵
委員	看 四宮一二三	看 四宮一二三	看 大西 淳子	行 大野 輝美	看 杉本 知子	看 杉本 知子	看 夏目 昌信	看 夏目 昌信	看 夏目 昌信	看 夏目 昌信
委員	看 荒木 暁子	看 荒木 暁子	看 権平くみ子	看 権平くみ子	看 夏目 昌信	看 夏目 昌信	助 鈴木佳代子	助 鈴木佳代子	看 内田 菊江	看 内田 菊江
委員	看 矢越 恭子	看 矢越 恭子	看 杉本 知子	看 杉本 知子	保 丸茂美智子	保 丸茂美智子	行 山本 郁子	行 山本 郁子	行 澤口佳穂美	行 加藤真知子
委員	看 権平くみ子	看 権平くみ子	保 丸茂美智子	保 丸茂美智子	行 山本 郁子	行 山本 郁子	看 坂西 晴香	看 竹中 敦子	看 西村 宣子	看 西村 宣子
委員	看 山下 紳子	看 榎本 麻里	看 矢越 恭子							
委員	看 榎本 麻里	看 大西 淳子	行 山添 充代							
委員	行 山本 郁子	行 蒲原みどり								

労働環境改善委員会										
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
委員長	看 平山真理子	看 平山真理子	看 伊藤 恵美	看 伊藤 恵美	看 伊藤 恵美	看 伊藤 恵美	看 栗原サキ子	看 栗原サキ子	看 遠山美智子	看 遠山美智子
副委員長	看 嶋村 有子	看 嶋村 有子	看 嶋村 有子	看 嶋村 有子	看 高木 康子	看 高木 康子	看 宮下 智枝	看 宮下 智枝	看 秋元 郁子	看 秋元 郁子
委員	看 竹末 孝子	看 竹末 孝子	行 石島 詩保	事 氏原 強	行 飯倉 一禎	行 坂上 和芳	看 岡崎 弘子	看 岡崎 弘子	看 安東 克子	看 安東 克子
委員	看 茅野 香子	看 茅野 香子	事 氏原 強	看 岡崎 弘子	行 坂上 和芳	看 辰澤 智恵	社 大石 博樹	社 大石 博樹	社 大石 博樹	社 大石 博樹
委員	看 山田みどり	看 山田みどり	看 岡崎 弘子	社 蒲島 竜也	看 辰澤 智恵	行 轟 直也	行 中根 貴裕	行 中根 貴裕	行 石井 智也	行 上村 雅
委員	看 吉田 千文	看 吉田 千文	社 蒲島 竜也	行 中田 明德	看 中島恵美子	看 中島恵美子	看 四宮一二三	看 四宮一二三	看 伊東 和子	看 市原 京子
委員	社 蒲島 竜也	社 蒲島 竜也	看 藤枝 純子	看 藤枝 純子	看 山田みどり	看 山田みどり	看 伊東 和子	看 伊東 和子		
委員	看 伊藤 恵美	看 伊藤 恵美	看 山田みどり	看 山田みどり						
委員	事 氏原 強	事 氏原 強	看 和野千枝子	看 和野千枝子						
委員	行 川名 千春	行 山添 充代								

医療安全委員会										
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
委員長	助 齊藤セツ子	保 小賀坂好子	保 小賀坂好子	保 小賀坂好子	保 小賀坂好子	保 小賀坂好子	保 小賀坂好子	看 久保ひろみ	看 久保ひろみ	看 久保ひろみ
副委員長	看 箭内 博子	看 箭内 博子	看 高橋 静子	看 高橋 静子	看 高橋 静子	看 高橋 静子	医 川村 実	医 川村 実	医 川村 実	医 川村 実
委員	看 小谷美千子	看 小谷美千子	薬 小坂 好男	薬 畝本 賜男	薬 畝本 賜男	行 猪野 茂樹	看 岩井 智美	看 岩井 智美	看 岩井 智美	看 岩井 智美
委員	看 高橋 静子	看 高橋 静子	医 龍野 一郎	看 窪田 容子	行 小泉 直美	薬 畝本 賜男	看 岡田 一美	看 岡田 一美	看 淵上 綱枝	看 淵上 綱枝
委員	医 龍野 一郎	医 龍野 一郎	看 遠山美智子	医 龍野 一郎	医 龍野 一郎	医 龍野 一郎	行 末永 道生	行 末永 道生	行 土居 秀子	行 土居 秀子
委員	薬 小安 勝	薬 小安 勝	行 早川 直樹	看 遠山美智子	臨 三浦 國男	臨 三浦 國男	薬 實川 東洋	薬 實川 東洋	薬 畝本 賜男	薬 畝本 賜男
委員	行 早川 直樹	行 早川 直樹	臨 三浦 國男	臨 三浦 國男	看 山内 典子	看 山内 典子	臨 堀 和芳	臨 堀 和芳	臨 堀 和芳	臨 堀 和芳
委員			看 箭内 博子	行 山本 昇						

広報委員会

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
委員長	看:許斐 玲子	看:鈴木真奈美	看:鈴木真奈美	看:佐藤 絹代	看:伊藤 淳子	看:伊藤 淳子	看:伊藤 淳子	看:伊藤 淳子	看:伊藤 淳子	看:伊藤 淳子
副委員長	看:久保ひろみ	看:久保ひろみ	看:久保ひろみ	看:久保ひろみ	看:椎名 昭文	看:椎名 昭文	看:岡崎加洋子	看:岡崎加洋子	看:岡崎加洋子	看:岡崎加洋子
委員	看:伊藤かづ子	看:伊藤かづ子	看:伊藤かづ子	看:伊藤かづ子	看:伊藤久美子	看:伊藤久美子	看:小松千代子	看:小松千代子	看:小松千代子	看:小松千代子
委員	看:馬場 志織	看:岡崎 恵利	看:佐藤 朗子	看:佐藤 朗子	看:岡崎加洋子	看:岡崎加洋子	看:石井 政美	看:石井 政美	看:濱岡 孝恵	看:濱岡 孝恵
委員	看:白井 正枝	看:白井 正枝	看:白井 正枝	看:白井 正枝	保:小川 純子	保:小川 純子	看:岩田 幸恵	看:松井 聖子	看:山添 充代	看:山添 充代
委員	看:佐藤 朗子	看:佐藤 朗子	看:田村 一義	看:田村 一義	看:小松千代子	看:小松千代子	看:福永由枝子	看:福永由枝子	看:西塚 弘美	看:西塚 弘美
委員			看:山崎 隼樹	看:山崎 隼樹	看:中岡由美子	看:中岡由美子	看:濱岡 孝恵	看:濱岡 孝恵	看:有吉 崇祐	看:有吉 崇祐

会員増促進委員会

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
委員長	看:長谷川美穂	看:長谷川美穂	看:石井久美子	看:石井久美子	看:石井久美子	看:石井久美子	看:石井久美子	看:石井久美子	看:神明 直美	看:神明 直美
副委員長	准:村杉 由美	准:村杉 由美	看:岡村 忍	看:岡村 忍	看:森 洋子	看:森 洋子	助:谷崎知恵子	助:谷崎知恵子	看:前田富士子	看:前田富士子
委員	看:岡村 忍	看:岡村 忍	准:落合 美典	准:落合 美典	保:内本 美鈴	保:岡田 明子	保:古川 恭子	保:古川 恭子	保:古川 恭子	保:塚田 真澄
委員	看:今関 栄子	看:今関 栄子	助:島守 洋子	看:柴崎 勉	保:岡田 明子	看:岡村 忍	保:前嶋 祥子	保:前嶋 祥子	保:阿部 裕子	保:阿部 裕子
委員	看:中島恵美子	看:中島恵美子	看:野城 寿子	助:島守 洋子	看:岡村 忍	看:柴田 恵子	看:森 洋子	看:横田 栄子	看:宮口 恵	看:宮口 恵
委員	看:峯 由紀子	看:峯 由紀子	看:峯 由紀子	看:森 洋子	看:柴田 恵子	保:古川 恭子	看:山口 直美	看:山口 直美	看:小宮山日登美	看:山藤 響子
委員	看:藤澤 里子	看:藤澤 里子	看:森 洋子	保:山田 邦子	看:山口 直美	看:山口 直美	看:菅谷 郁子	看:菅谷 郁子	看:松山 昌子	看:松山 昌子
委員	保:菅 公子	保:菅 公子	保:山田 邦子							
委員	助:橋野 恭子	助:橋野 恭子								

看護研究委員会				
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
委員長	看: 加納佳代子	看: 加納佳代子	看: 高柴 律子	看: 高柴 律子
副委員長	看: 鈴木のり子	保: 塚田 真澄	看: 市原 真穂	看: 市原 真穂
委員	看: 市原 真穂	看: 市原 真穂	看: 菊田 直美	看: 菊田 直美
委員	看: 木崎 慎一	看: 菊田 直美	看: 木崎 慎一	看: 木崎 慎一
委員	保: 塚田 真澄	看: 木崎 慎一	看: 高瀬 峰子	看: 高瀬 峰子
委員	保: 吉江 悟	保: 吉江 悟	保: 吉江 悟	保: 吉江 悟
委員	看: 川端 心	看: 川端 心	看: 菊地 千佳	看: 菊地 千佳

災害対策委員会			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度
委員長	看: 鈴木美智子	看: 鈴木美智子	看: 鈴木美智子
副委員長	看: 平野美佐子	看: 平野美佐子	看: 平野美佐子
委員	看: 内海 清乃	看: 内海 清乃	看: 内海 清乃
委員	医: 堀部 和夫	医: 金江 清	医: 金江 清
委員	薬: 日向章太郎	薬: 日向章太郎	薬: 日向章太郎
委員	看: 宮間 厚子	看: 宮間 厚子	看: 宮間 厚子
委員	行: 三輪 雅弘	行: 三輪 雅弘	行: 河内 勝
委員	行: 山崎 豊	行: 山崎 豊	行: 齋藤 孝治

推薦委員会										
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
委員長	看: 神山 敦子	保: 宮本 幸枝	看: 亀田日出子	看: 佐瀬けい子	看: 浮ヶ谷芳子	看: 神明 直美	看: 鈴木 美香	看: 高橋 初枝	看: 青田 孝子	看: 竹中 敦子
副委員長	保: 安田 典代	保: 岸部 友美	保: 福原 祐子	看: 関口 明美	看: 布施とも子	看: 須田 峰子	保: 塚本 清江	保: 池田美佐子	保: 塚田 真澄	保: 宇崎めぐみ
委員	助: 富樫 嘉子	看: 中村 初音	助: 前田富士子	保: 池田美佐子	保: 古川 恭子	保: 生駒 博子	助: 和田 利香	助: 土古 隆子	助: 石毛しげみ	助: 徳田真理子
委員	看: 岡崎 弘子	看: 鈴木 栄子	看: 山賀 好美	看: 石原 照子	助: 鈴木佳代子	助: 下河邊仁子	看: 松川菜穂美	看: 米山あゆみ	看: 跡治江理奈	看: 鈴木 敦子
委員	看: 今野恵美子	看: 石川 清美	看: 今野 弘子	助: 梅澤 明美	看: 大野美喜子	看: 田口真由美	看: 長坂 奎英	看: 藤根 佳子	看: 山岸 聡子	看: 林 弥生
委員	看: 上原 文子	助: 日暮奈緒美	看: 中島恵美子	看: 大坂 美穂	看: 佐々木悦子	看: 愛川由美子	看: 鶴崎美優希	看: 大澤 通子	看: 和田みどり	看: 岡田 智恵
委員	看: 神 尚子	看: 遠山美智子	看: 戸田 順子	看: 結城 千佳	看: 久保ひろみ	看: 光野 清美	看: 伊東 都	看: 上田 広美	看: 梅野加寿枝	看: 日向 早苗

5 特別委員会

認定看護管理者教育課程運営委員会										
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
委員長	看 吉田 千文	看 吉田 千文	看 石渡 祥子	看 石渡 祥子	看 石渡 祥子	看 石渡 祥子	看 石渡 祥子	保 伊藤 隆子	保 伊藤 隆子	看 大坂 美穂
副委員長	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	看 市原 京子	看 市原 京子	看 飯野 理恵
委員	看 青木きよ子	看 青木きよ子	看 吉田 千文	看 吉田 千文	看 吉田 千文	看 吉田 千文	看 吉田 千文	看 吉田 千文	看 大坂 美穂	保 伊藤 隆子
委員	保 野地 有子	保 野地 有子	看 青木きよ子	看 青木きよ子	看 青木きよ子	保 野地 有子	保 野地 有子	看 飯野 理恵	看 飯野 理恵	看 住谷真由美
委員	助 濱野 孝子	助 濱野 孝子	保 野地 有子	保 野地 有子	保 野地 有子	保 伊藤 隆子	保 伊藤 隆子	看 箭内 博子	看 松木 和子	看 高橋 初枝
委員	看 石渡 祥子	看 石渡 祥子	助 濱野 孝子	助 吉川 淳子	助 吉川 淳子	助 吉川 淳子	助 吉川 淳子	看 松木 和子	看 箭内 博子	看 松木 和子
委員	看 拜原 優子	看 拜原 優子	看 拜原 優子	看 森 洋子	看 藤澤 里子	看 藤澤 里子	看 松木 和子	看 内山 弘子	看 内山 弘子	看 長谷川美穂
委員	行 山本 郁子	行 蒲原みどり	行 山添 充代	行 大野 輝美	行 山本 郁子	行 米崎 民子	行 山本 郁子	看 二瓶 律子	看 二瓶 律子	看 三枝多可子
委員	看 杉本 龍子	看 杉本 龍子	助 橋野 恭子	助 橋野 恭子	看 寺口 恵子	看 寺口 恵子	看 内山 弘子	看 吉田あや子	看 関 里美	看 愛川由美子
委員		助 橋野 恭子	助 齋藤 千秋	保 寺島 正子	保 寺島 正子	保 寺島 正子	保 寺島 正子	看 渡辺 尚子	看 福家友美子	看 福家友美子
委員					看 吉田あや子	看 吉田あや子	看 二瓶 律子			
委員							看 吉田あや子			

看護職定着確保対策協議会										
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
委員長	保 松永 敏子	保 松永 敏子	看 星野恵美子	看 星野恵美子	看 星野恵美子	看 星野恵美子	看 寺口 恵子	看 寺口 恵子	看 寺口 恵子	看 寺口 恵子
副委員長	行 早川 直樹	行 早川 直樹	行 早川 直樹	行 新田 徹	行 田中 一成	行 田中 一成	行 五十嵐貴男	行 五十嵐貴男	行 五十嵐貴男	行 大関 祥司
委員	医 井上 雄元	医 井上 雄元	医 田畑陽一郎	医 田畑陽一郎	医 三枝奈芳紀	医 三枝奈芳紀	医 松岡かおり	医 松岡かおり	医 日比野久美子	医 日比野久美子
委員	医 中村 孝雄	医 中村 孝雄	医 梶原 優	医 梶原 優	医 梶原 優	医 梶原 優	医 梶原 優	医 梶原 優	医 梶原 優	医 梶原 優
委員	事 氏原 強	事 氏原 強	事 氏原 強	事 氏原 強	事 氏原 強	事 氏原 強	事 相澤 佐	事 相澤 佐	事 今村 勝	事 今村 勝
委員	看 八木 直子	看 八木 直子	看 八木 直子	看 八木 直子	看 蝦名 總子	看 蝦名 總子	看 蝦名 總子	看 蝦名 總子	看 菅原 玉枝	看 菅原 玉枝
委員	社 蒲島 竜也	社 蒲島 竜也	社 蒲島 竜也	社 蒲島 竜也	社 徳永 康子	社 徳永 康子	社 松本 利浩	社 松本 利浩	行 中村 芳明	行 佐藤 幸生
委員	行 加藤 重	行 加瀬 一郎	行 石橋 登	行 石橋 登	行 藤澤 俊一	行 藤澤 俊一	行 小出 明弘	行 小出 明弘	社 宮沢 佳子	社 宮沢 佳子
委員	看 石渡 祥子	看 石渡 祥子	看 伊藤 恵美	看 伊藤 恵美	看 伊藤 恵美	看 伊藤 恵美	看 栗原サキ子	看 栗原サキ子	看 鴫田佳容子	看 鴫田佳容子
委員	看 山田みどり	看 山田みどり					看 嶋村 有子	看 嶋村 有子	看 遠山美智子	看 遠山美智子

千葉県ナースセンター運営委員会

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
委員長	保 松永 敏子	保 松永 敏子	看 星野惠美子	看 星野惠美子	看 星野惠美子	看 星野惠美子	看 寺口 恵子	看 寺口 恵子	看 寺口 恵子	看 寺口 恵子
副委員長	行 早川 直樹	行 早川 直樹	行 早川 直樹	行 新田 徹	行 新田 徹	行 田中 一成	行 五十嵐貴男	行 五十嵐貴男	行 五十嵐貴男	行 大関 祥司
委員	医 井上 雄元	医 井上 雄元	医 田畑陽一郎	医 田畑陽一郎	医 三枝奈芳紀	医 三枝奈芳紀	医 松岡かおり	医 松岡かおり	医 日比野久美子	医 日比野久美子
委員	医 鈴木 紀彰	医 鈴木 紀彰	医 鈴木 紀彰	医 鈴木 紀彰	医 福田 和正	医 福田 和正	医 福田 和正	医 福田 和正	医 福田 和正	医 福田 和正
委員	看 竹内美佐子	看 竹内美佐子	看 竹内美佐子	看 竹内美佐子	看 竹内美佐子	看 菊地 薫	看 菊地 薫	看 菊地 薫	看 菊地 薫	看 菊地 薫
委員	看 権平くみ子	看 権平くみ子	看 権平くみ子	看 権平くみ子	看 徳重 敬子	看 徳重 敬子	看 徳重 敬子	看 徳重 敬子	看 大塚 玲子	看 大塚 玲子
委員	助 石井 邦子	助 石井 邦子	看 西野 郁子	看 西野 郁子	助 石井 邦子	助 石井 邦子	保 吉江 悟	保 吉江 悟	看 高木 智美	看 伊藤 貴子
委員	看 久部 洋子	看 齊藤未利子	看 齊藤未利子	看 齊藤未利子	看 齊藤未利子	看 橋口 広子	助 石井 邦子	助 石井 邦子	看 徳重 敬子	看 徳重 敬子
委員	行 江口 敏彦	行 安田 国土	行 安田 国土	行 安田 国土	行 村上 英輝	行 村上 英輝	看 橋口 広子	看 橋口 広子	保 吉江 悟	保 吉江 悟
委員	行 大友 浩一	行 山本 政好	行 進藤 誠	行 進藤 誠	行 齋藤 光子	行 藤澤 俊一	行 田邊 暁子	行 田邊 暁子	助 石井 邦子	助 石井 邦子
委員	看 平山真理子	看 平山真理子	看 伊藤 恵美	看 伊藤 恵美	看 大塚 玲子	看 大塚 玲子	行 小出 明弘	行 中村 芳明	看 橋口 広子	看 鶴田 猛
委員	看 茅野 香子	看 石井 崇子	助 丸山 祝子	助 丸山 祝子	看 石原 照子	看 石原 照子	看 大塚 玲子	看 大塚 玲子	行 笠置賀奈美	行 笠置賀奈美
委員							看 高木 智美	看 高木 智美	行 堀江 昌生	行 鈴木 潤史
委員									看 渡辺 尚子	看 渡辺 尚子

千葉県看護師等就業協力員部会

	平成24年度	平成25年度
部会長	看 星野惠美子	看 星野惠美子
委員	看 石井 崇子	看 石井 崇子
委員	看 高野 友子	保 小賀坂好子
委員	看 西方 恭子	看 山崎 住江
委員	看 園田 満子	看 渡邊 一枝
委員	看 小西 洋子	看 佐々木悦子
委員	看 小倉きみ子	看 小谷美千子
委員	看 伊藤 恵美	看 伊藤 恵美
委員	看 茅野 香子	看 村山 敦子
委員	看 伊藤 幸子	看 金澤美智子
委員	看 藤枝 純子	看 倉津与之美
委員	看 遠山美智子	看 村田 泉
委員	看 佐久間祥子	助 丸山 祝子
委員	行 大倉 健一	行 松本 望
委員	行 早川 直樹	行 早川 直樹

千葉県看護協会災害対策委員会

	平成29年度	平成30年度
委員長	看 石井美恵子	看 石井美恵子
副委員長	看 小暮 美子	助 金澤 薫
委員	看 川上 節子	看 川上 節子
委員	看 小宮山日登美	看 小宮山日登美
委員	看 植草 恵	看 植草 恵
委員	看 仲村 孝一	看 仲村 孝一
委員	行 大野 一美	行 大野 一美
委員	行 市川 滋子	行 市川 滋子
委員	行 高山 行夫	行 高山 行夫
委員	行 田口 大	行 田口 大

6 地区部会

千葉地区部会										
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
地区会長	石井 崇子	石井 崇子	太田 茂	太田 茂	荒木 暁子	中島恵美子	中島恵美子	石井 邦子	石井 邦子	岸部 友美
副地区会長	丸山 恭子	千代田操子	今野 弘子	鹿島美恵子	鹿島美恵子	箱崎 恵理	箱崎 恵理	中野 美子	中野 美子	大坂 美穂
地区書記	中島恵美子	丸山 恭子	千代田操子	三宅 千帆	手島 朋美	手島 朋美	中田 正浩	中田 正浩	生澤 敦子	生澤 敦子
地区会計	深澤 順子	鈴木 節子	鈴木 節子	武井真寿子	武井真寿子	上永吉美代子	上永吉美代子	新井 玲子	新井 玲子	新井 玲子
地区幹事	小島 恭子	小島 恭子	横土由美子	後藤 裕子	三枝 初代	三枝 初代	伊藤亜紀子	伊藤亜紀子	大澤 通子	高橋みどり
地区幹事	市原 京子	市原 京子	小川 純子	藤澤 里子	藤澤 里子	澤田 正志	石川 紀子	石川 紀子	武井真寿子	武井真寿子
地区幹事	大谷真千子	中村勢津子	渡邊美佐子	小川 純子	澤田 正志	河北るみ子	河北るみ子	宮野 公恵	宮野 公恵	坂本 照美
地区幹事	宮原 沙織	宮原 沙織	岸部 友美	竹内 義美	竹内 義美	稲葉美知代	坂本 照美	今野 弘子	池畑久美子	池畑久美子
地区幹事	門脇 真弓	岸部 友美	城戸口幹子	城戸口幹子	稲葉美知代	細川 優子	細川 優子	池畑久美子	今野 弘子	大橋 純子

市原地区部会										
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
地区会長	高野 友子	小賀坂好子	小賀坂好子	川上 節子	川上 節子	東 則子	青田 孝子	青田 孝子	入江 昭子	入江 昭子
副地区会長	中嶋 玲子	青田 孝子	青田 孝子	小賀坂好子	東 則子	青田 孝子	入江 昭子	入江 昭子	鈴木 美香	鈴木 美香
地区書記	井上 千鶴	宮崎 恵子	宮崎 恵子	宮崎 恵子	宮崎 恵子	竹中 敦子	竹中 敦子	小出 里佳	後藤 裕子	佐藤 朗子
地区会計	荒井知栄子	神山 敦子	梅里 妙子	梅里 妙子	手島 裕子	手島 裕子	太田 裕子	太田 裕子	木内小百合	木内小百合
地区幹事	前田 幸子	前田 幸子	前田 幸子	前田 幸子	石津三恵子	木崎 慎一	木崎 慎一	木崎 慎一	木崎 慎一	木崎 慎一
地区幹事	八島 栄子	菫山 仁美	菫山 仁美	原田 敦子	原田 敦子	石津三恵子	岩脇 千鶴	岩脇 千鶴	齋藤 知美	鈴木恵美子
地区幹事	湯浅 智子	湯浅 智子	石塚美千子	石塚美千子	高塚 裕子	島田 奈美	齊藤 明日香	齊藤 知美	鈴木恵美子	齋藤 知美
地区幹事	青木 都	齊藤 恵子	齊藤 恵子	神山 敦子	條 香織	條 香織	條 香織	齊藤明日香	山本 智美	山本 智美

船橋地区部会										
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
地区会長	西方 恭子	山崎 住江	山崎 住江	光野 清美	光野 清美	佐々木悦子	佐々木悦子	上田 千春	住谷真由美	川崎 敬子
副地区会長	金田ひとみ	金田ひとみ	金田ひとみ	金田ひとみ	開保津貴子	市川 智子	上田 千春	出口香緒利	川崎 敬子	宇梶 智子
地区書記	秋山 恵子	出井 美知子	出井美知子	鶴崎美優希	鶴崎美優希	福家友美子	福家友美子	藤倉 妙子	藤倉 妙子	佐々木悦子
地区会計	山崎 住江	鶴崎美優希	鶴崎美優希	山崎 住江	山崎 住江	山崎 住江	柴田 恵子	田口美知子	田口美知子	庄田 由美
地区幹事	中村 明子	伊東 都	滝口 恵子	滝口 恵子	愛川由美子	吉田留美子	村山美佐子	長江 尚美	塚本美智子	宮下 智枝
地区幹事	内匠伊佐子	内匠伊佐子	内匠伊佐子	出井美知子	山田 邦子	愛川由美子	長江 尚美	塚本美智子	宮下 智枝	堀越 敏江
地区幹事	滝口 恵子	滝口 恵子	伊東 都	荒澤 恵子	福家友美子	村山美佐子	辻 さつき	市川 智子	宮本千津子	宮本千津子
地区幹事			荒澤 恵子	井上 薫	井上 薫	荒澤 恵子	市川 智子	辻 さつき	角田まゆみ	高瀬 育子

市川地区部会

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
地区 部会長	園田 満子	渡邊 一枝	渡邊 一枝	渡部 洋子	渡部 洋子	鈴木たまえ	鈴木たまえ	鈴木たまえ	鈴木たまえ	浅川 利恵
副地区 部会長	渡邊 一枝	小畑美紀子	渡部 洋子	泉山 明美	鈴木たまえ	佐藤江利子	佐藤江利子	玉村 弘美	六ツ見しのぶ	菅原 聡美
書記	寄本 洋子	恩田 京子	恩田 京子	佐藤 香里	佐藤 香里	田中 初枝	田中 初枝	竹内美佐子	竹内美佐子	今居 恭子
会計	近江 綾子	阿部 由花	阿部 由花	鈴木いつみ	鈴木いつみ	柴尾裕加里	柴尾裕加里	佐藤 香里	佐藤 香里	野沢 順子
幹事	有坂 美佐	羽角小百合	羽角小百合	岡本 育代	南村 京子	南村 京子	安藤 勇子	長谷川多津子	長谷川多津子	秋本 美保
幹事	布施 照美	布施 照美	井口多香子	渡部 民子	小久保智子	小久保智子	佐藤 弘美	尾藤 彰子	渡部 洋子	野崎真奈美
幹事	柴田 滋子	柴田 滋子	岡本 育代	宮崎 志穂	宮崎 志穂	安藤 勇子	尾藤 彰子	渡部 洋子	野崎真奈美	秋田 葉子
幹事	佐藤 令子	井口多香子	渡部 民子	原田 静香	原田 静香	佐藤 弘美	池澤 亜矢	池澤 亜矢	脇坂 史子	林 千香子

松戸地区部会

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
地区 部会長	小西 洋子	佐々木悦子	齋藤 洋子	齋藤 洋子	根本由美子	乾 久美子	喜瀬はるみ	喜瀬はるみ	菅原 直美	菅原 直美
副地区 部会長	宮本 祐子	宮本 祐子	関口 明美	関口 明美	山賀 好美	喜瀬はるみ	薄井 敏憲	菅原 直美	根岸 暢子	根岸 暢子
書記	佐々木悦子	辰澤 智恵	宮本 祐子	宮本 祐子	乾 久美子	花里 ゆか	田村 圭子	田村 圭子	高野ちえ子	高野ちえ子
会計	川井 弘子	小市 里香	小市 里香	中村 初音	中村 初音	神 尚子	神 尚子	三枝多可子	井上 利佳	篠塚あゆみ
幹事	小林美智子	池田あけみ	根本由美子	根本由美子	川井久美子	宝田 忠子	浦 昌子	花里 美雪	花里 美雪	宮本 祐子
幹事	池田あけみ	大沼 順子	大沼 順子	宝田 忠子	宝田 忠子	小澤 美樹	小澤 美樹	守田加寿子	上原多恵子	谷口千賀子
幹事	平野由紀子	久保田米子	神 尚子	山賀 好美	田中 且子	田中 且子	石野 恵子	上原多恵子	宮本 祐子	種村 和行
幹事	久保田米子	神 尚子	山賀 好美	佐々木悦子	辰澤 智恵	田尻 雅子	田尻 雅子	石野 恵子	種村 和行	石島 広美

東葛地区部会

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
地区 部会長	小倉きみ子	小谷 美千子	石渡 リキ	石渡 リキ	中澤 文子	山下ひとみ	浅沼 智恵	浅沼 智恵	米山あゆみ	米山あゆみ
副地区 部会長	小谷美千子	石井久美子	石井久美子	菊地 薫	菊地 薫	中村美代子	中村美代子	水口かおり	水口かおり	日比野幸子
書記	田村 礼子	奥村 芳江	旗谷 晴美	高橋 淳子	萩原 祐子	萩原 祐子	長坂 奎英	長坂 奎英	佐藤 秀子	佐藤 秀子
会計	続木田鶴子	浅野美穂子	浅野美穂子	中山 理恵	中山 理恵	藤浪実江子	板林 和子	鳥居 敦子	鳥居 敦子	根本 香織
幹事	根本 明美	川和田博美	川和田博美	加藤真由美	大森 孝子	佐々木郁子	佐々木郁子	増田 智子	増田 智子	大熊 未央
幹事	内田てる美	内田てる美	加藤真由美	大下 照子	高井 孝子	鍋田 芳子	鍋田 芳子	窪倉みさ江	窪倉みさ江	石黒 大輔
幹事	濱石ミチ子	沼尻 睦子	沼尻 睦子	高井 孝子	佐澤夫佐好	大森 孝子	高橋 恵美	高橋 恵美	青柳 律子	青柳 律子
幹事	奥村 芳江	岩永 信子	大下 照子	長沢 順子	長沢 順子	佐澤夫佐好	森 智美	廣瀬 幸子	鶴岡 未央	廣田 晶子

印 旛 地 区 部 会

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
地区 部会長	伊藤 恵美	伊藤 恵美	伊藤 恵美	瀬瀬真砂美	高木 智美	高木 智美	植草 恵	植草 恵	諸岡千賀子	諸岡千賀子
地区 副会長	内田 菊江	内田 菊江	瀬瀬真砂美	高木 智美	瀬瀬真砂美	植草 恵	高木 智美	高木 智美	諸岡 千賀子	植草 恵
書 記	京谷みよ子	京谷みよ子	高木 智美	葛生 則子	葛生 則子	丸 好美	丸 好美	丸 好美	丸 好美	安永真紀子
会 計	丸山美穂子	丸山美穂子	丸山美穂子	丸山美穂子	丸山美穂子	宮崎久美子	宮崎久美子	石田 優美	石田 優美	江島 紀子
幹 事	近藤 才子	瀬瀬真砂美	京谷みよ子	京谷みよ子	京谷みよ子	京谷みよ子	京谷みよ子	工藤 由花	伊藤 恵美	伊藤 恵美
幹 事	瀬瀬真砂美	大木 順子	上野真知子	中村 智子	由比 寿子	瀬瀬真砂美	瀬瀬真砂美	瀬瀬真砂美	椎田 好恵	椎田 好恵
幹 事	大木 順子	石村 和美	山本 智美	上野 真知子	山本佐重子	出井美知子	出井美知子	出井美知子	瀬瀬真砂美	瀬瀬真砂美
幹 事	古川 恭子	山本 智美	中村 智子	川崎 由紀	川崎 由紀	山本 佐重子	石田 優美	石田 優美	工藤 由花	工藤 由花

利 根 地 区 部 会

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
地区 部会長	茅野 香子	村山 敦子	村山 敦子	村山 敦子	村山 敦子	村山 敦子	村山 敦子	加藤 早苗	加藤 早苗	渡邊 恵
地区 副会長	加藤 早苗	加藤 早苗	加藤 早苗	成毛 一子	成毛 一子	菅澤 京子	菅澤 京子	堀越 佳代	堀越 佳代	篠塚 信子
書 記	豊田 栄子	井中 文恵	井中 文恵	野口 君代	野口 君代	北崎 敏子	北崎 敏子	山本 美佳	山本 美佳	池田美代子
会 計	鈴木 玉子	鈴木 玉子	越川 利江	越川 利江	小林 千恵	小林 千恵	石井 久美	石井 久美	石井 久美	吉村 靖子
幹 事	飯笹 和子	五木田奈留美	白山 昌江	佐々木有美	佐々木有美	守部 雅美	守部 雅美	篠塚 信子	篠塚 信子	大木 幸恵
幹 事	五木田奈留美	飯笹 和子	野村ふみ子	大川あさ子	大川あさ子	守部 雅美	七五三 忍	小池富美代	小池富美代	飯笹 和子
幹 事	小山きよ子	宇崎めぐみ	大川あさ子	野村ふみ子	野村ふみ子	吉村 靖子	吉村 靖子	小堀 恵子	小堀 恵子	伊藤 尚美
幹 事	塚本 清江	白山 昌江	寺島美菜子	寺島美菜子	山本 優子	山本 優子	山本 優子	木村 依里	木村 依里	飯笹 和子
幹 事	塚本 清江	白山 昌江	寺島美菜子	寺島美菜子	山本 優子	山本 優子	山本 優子	木村 依里	大木 幸恵	木下 寿美

山 武 地 区 部 会

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
地区 部会長	伊藤 幸子	金澤美智子	金澤美智子	金澤美智子	石原 照子	石原 照子	塚原 信江	塚原 信江	渡辺 郁子	渡辺 郁子
地区 副会長	伊藤 千浪	岩澤 紀子	岩澤 紀子	岩澤 紀子	岩澤 紀子	岩澤 紀子	渡辺 郁子	渡辺 郁子	林 孝枝	林 孝枝
書 記	土屋 裕子	杉浦 理沙	杉浦 理沙	伊藤 文江	伊藤 文江	猪野美佐緒	猪野美佐緒	和田 浩子	和田 浩子	宇井 教恵
会 計	末高美代子	末高美代子	林 孝枝	林 孝枝	山本昌衣子	山本昌衣子	河野 由紀	河野 由紀	河野 由紀	河野 由紀
幹 事	吉水 雅子	吉水 雅子	吉水 雅子	渡辺 郁子	石橋 明美	塚原 信江	御前 華子	御前 華子	御前 華子	御前 華子
幹 事	長嶺 正光	長嶺 正光	長嶺 正光	嶋田 啓子	嶋田 啓子	嶋田 啓子	嶋田 啓子	嶋田 啓子	嶋田 啓子	柴田栄利子
幹 事	高知尾好美	高知尾好美	高知尾好美	塚原 信江	塚原 信江	小川 雅子	石橋 明美	石橋 明美	石橋 明美	石橋 明美
幹 事	濱手 和子	濱手 和子	渡辺 郁子	中村 敦子	中村 敦子	石橋 明美	小川 雅子	小川 雅子	川崎 由紀	出井美知子

長 夷 地 区 部 会											
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
地区 部会長	藤枝 純子	倉津与之美	倉津与之美	倉津与之美	倉津与之美	倉津与之美	倉津与之美	倉津与之美	亀田日出子	亀田日出子	亀田日出子
副地区 部会長	倉津与之美	宮嶋 里美	宮嶋 里美	宮嶋 里美	宮嶋 里美	亀田日出子	亀田日出子	亀田日出子	藤本 孝子	藤本 孝子	藤本 孝子
書記	鈴木真由美	鈴木真由美	鈴木真由美	鈴木真由美	鈴木真由美	目良 朋子	目良 朋子	目良 朋子	目良 朋子	目良 朋子	目良 朋子
会計	平野すみ代	平野すみ代	平野すみ代	小原 雅俊	小原 雅俊	小原 雅俊	小原 雅俊	小原 雅俊	小原 雅俊	小原 雅俊	長谷川好徳
幹事	秋葉 泰子	米良 祐子	岡澤 美知	岡澤 美知	岡澤 美知	鈴木 栄子	鈴木 栄子	池本 敦子	池本 敦子	池本 敦子	
幹事	岡澤 美知	岡澤 美知	小田桐信子	池本 敦子	池本 敦子	池本 敦子	池本 敦子	鈴木 栄子	高貫 信子	中豊留美恵子	
幹事	加藤 典子	小田桐信子	岩崎 和子	高貫 信子	高貫 信子	高貫 信子	高貫 信子	高貫 信子	中豊留美恵子	酒井 雄次	
幹事	岩崎 和子	岩崎 和子	米良 祐子	米良 祐子	米良 祐子	米良 祐子	米良 祐子	関 春美	高知尾明子	高知尾明子	

君 津 地 区 部 会										
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
地区 部会長	遠山美智子	村田 泉	齋藤みち子	板倉 朋子	岡崎 弘子	村田 泉	新田 ルミ	金綱はるみ	金綱はるみ	賀来かおり
副地区 部会長	村田 泉	齋藤みち子	板倉 朋子	岡崎 弘子	村田 泉	新田 ルミ	金綱はるみ	賀来かおり	賀来かおり	鳥飼 紀子
書記	松本 秀吉	松本 秀吉	岡野 久美	岡野 久美	板倉 朋子	賀来かおり	林 明己	林 明己	関谷 希望	佐藤 正子
会計	長谷川えみ子	岡本 恵子	村田 泉	村田 泉	新田 ルミ	佐久間香織	岡野 久美	岡野 久美	岡野 久美	馬竹富美代
幹事	佐久間香織	羽藤 順子	加藤久美子	松田久美子	秦野 康子	秦野 康子	鳥飼 紀子	鳥飼 紀子	鳥飼 紀子	桑田 祐加
幹事	加藤久美子	中机えり子	新田 ルミ	新田 ルミ	石井 市枝	岡野 久美	賀来かおり	桑田 祐加	桑田 祐加	池田 由香
幹事	竹田 康子	加藤久美子	宮本 幸枝	加藤岡知子	岡野 久美	鳥飼 紀子	桑田 祐加	池田 由香	池田 由香	小倉真奈美
幹事	戸田 順子	戸田 順子	谷 さゆり	齋藤みち子	佐久間香織	川名 千春	池田 由香	池田 由香	池田 由香	大隅千恵子

安 房 地 区 部 会										
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
地区 部会長	佐久間祥子	丸山 祝子	丸山 祝子	関口 友子	関口 友子	君塚 真弓	君塚 真弓	本橋 則子	本橋 則子	山岸 智子
副地区 部会長	丸山 祝子	関口 友子	関口 友子	君塚 真弓	君塚 真弓	本橋 則子	本橋 則子	山岸 智子	山岸 智子	橋野みゆき
書記	本橋 則子	桜井 美春	桜井 美春	櫻井 美春	山岸 智子	山岸 智子	櫻井 美春	橋野みゆき	橋野みゆき	池田 純
幹事	三田 君江	堺 真智子	山本 雅美	山本 雅美	加藤 美保	神作 朋子	萩原 美奈	滝川 智子	栗田みよ子	山本 雅美
幹事	小粒 佳子	山崎美佐子	山崎美佐子	真野 響子	真野 響子	長尾 貴子	滝川 智子	栗田みよ子	関根 恵子	鶴沢 淳子
幹事	山崎美佐子	橋野みゆき	橋野みゆき	加藤 美保	神作 朋子	萩原 美奈	長尾 貴子	鶴田 猛	忍足 悦子	小島 玲子
幹事	堺 真智子	小宮 孝子	小宮 孝子	佐々木真弓	佐々木真弓	鈴木 健一	鈴木 健一	忍足 悦子	山本 雅美	関口 友子
幹事	桜井 美春	田中 和代	田中 和代	児玉 一世	児玉 一世	小坂 重樹	小坂 重樹	勝 左千子	児玉 一世	栗田みよ子

※ 各年度 定時総会要綱から抜粋

役名\年度	平成29年度	役名\年度	平成30年度	役名\年度	令和元年度	役名\年度	令和2年度	役名\年度	令和3年度
局 長	安西 隆	局 長	齋藤 博	局 長	荒川 裕司	局 長	荒川 裕司	局 長	荒川 裕司
総務部 長	笹口 芳則	総務部 長	笹口 芳則	総務部 長	石野 勝	総務部 長	早川 直樹	総務部 長	早川 直樹
総務課 主任	荒木 俊行 湯浅 尚吾 小関ちはる 西岡 智恵	総務課 主任	瀬戸 輝夫 小関ちはる 西岡 智恵 有川 理恵 伊藤 佑子	総務課 主任	小関ちはる 瀬戸 輝夫 西岡 智恵 有川 理恵 伊藤 佑子	総務課 主任	有川 理恵 西岡 智恵 瀬戸 輝夫 伊藤 佑子 佐々木純子	総務課 主任	有川 理恵 西岡 智恵 齋藤奈津子 瀬戸 輝夫 佐々木純子 小松 尚美
事業部 長	井上 恵子	事業部 長	井上 恵子	事業部 長	井上 恵子	事業部 長	渡辺 尚子	事業部 長	金子 恵子
事業第二課長事務取扱		事業第二課長事務取扱		事業第二課長事務取扱		事業第二課長事務取扱		事業第二課長事務取扱	
事業第一課 係長 主任	保坂 和子 田口 三奈 西牧奈津恵 浅野 弘恵 吉川由美子	事業第一課 係長 主任	渡辺 尚子 田口 三奈 西牧奈津恵 浅野 弘恵 吉川由美子	事業第一課 係長 主任	渡辺 尚子 田口 三奈 西牧奈津恵 浅野 弘恵 吉川由美子	事業第一課 主任	田口 三奈 西牧奈津恵 浅野 弘恵	事業第一課 主任	喜瀬はるみ 田口 三奈 浅野 弘恵 齋藤亜友美
事業第二課	仲邑三恵子 川上 和代 齋藤奈津子 WLB推進アドバイザー 就業相談推進アドバイザー 就業相談推進アドバイザー 就業相談推進アドバイザー 就業相談推進アドバイザー	事業第二課	仲邑三恵子 藤井 佳子 齋藤奈津子 *山田みどり WLB推進アドバイザー 就業相談推進アドバイザー 就業相談推進アドバイザー 就業相談推進アドバイザー 就業相談推進アドバイザー	事業第二課 長	金子 恵子 仲邑三恵子 藤井 佳子 齋藤奈津子 *山田みどり WLB推進アドバイザー 就業相談推進アドバイザー 就業相談推進アドバイザー 就業相談推進アドバイザー 就業相談推進アドバイザー	事業第二課 長	金子 恵子 藤井 佳子 齋藤奈津子 吉川由美子 高橋 恵 WLB推進アドバイザー 就業相談推進アドバイザー 就業相談推進アドバイザー 就業相談推進アドバイザー 就業相談推進アドバイザー	事業第二課	藤井 佳子 吉川由美子 伊藤 佑子 齋藤 美和 市原 京子 *四宮一二三 *滝口 容子 *齋藤 洋子 *関端由美子
教育部 長	寺島 正子	教育部 長	寺島 正子	教育部 長	二瓶 律子	教育部 長	二瓶 律子	教育部 長	三枝多可子
教育課 参与 看護教員養成講習会担当	*吉田あや子 佐藤実代子 大島 末美 松山 千夏 藤井 佳子 有川 理恵 飛田野由理恵	教育課 参与 看護教員養成講習会担当	*吉田あや子 石川 敦子 川上 和代 荒木 俊行 松山 千夏 飛田野由理恵	教育課 参与 看護教員養成講習会担当	*吉田あや子 石川 敦子 川上 和代 松山 千夏 飛田野由理恵 直井 玲華	教育課 参与 看護教員養成講習会担当	関 里美 福家友美子 西山 京子 川上 和代 松山 千夏 黒田 玲華 石原 淳 高橋吏才子 *関 里美	教育課 参与 看護教員養成講習会担当	福家友美子 西山 京子 川上 和代 松山 千夏 黒田 玲華 石原 淳 高橋吏才子 *関 里美
ちば訪問看護ステーション 所長 主任	権平くみ子 宍戸 幸 *畑 澄代 *笹木早登美 *岡山 裕子 *山野内裕子 *木下 稲美 *川口あゆみ *赤羽 創 *山野 瑞木 渡邊八重子	ちば訪問看護ステーション 所長 主任	権平くみ子 宍戸 幸 藤城 慶子 畑 澄代 *笹木早登美 *岡山 裕子 *山野内裕子 *川口あゆみ *中田百合子 *小林真奈美 *藤本 敬子 高山なおみ	ちば訪問看護ステーション 所長	権平くみ子 藤城 慶子 宮川 瑞枝 畑 澄代 箱崎 恵理 *笹木早登美 *岡山 裕子 *山野内裕子 *川口あゆみ *中田百合子 *小林真奈美 *藤本 敬子 *溝口 真木 *山川 麻衣	ちば訪問看護ステーション 所長	箱崎 恵理 藤城 慶子 宮川 瑞枝 溝口 真木 松原 弥生 *笹木早登美 *岡山 裕子 *山野内裕子 *川口あゆみ *中田百合子 *小林真奈美 *藤本 敬子	ちば訪問看護ステーション 所長	箱崎 恵理 藤城 慶子 宮川 瑞枝 溝口 真木 松原 弥生 *笹木早登美 *岡山 裕子 *山野内裕子 *川口あゆみ *中田百合子 *小林真奈美 *藤本 敬子 *川緑美佐江

*非常勤職員

かつらひな祭り



VII 定 款

第1章 総 則

(名 称)

第1条 この法人は、公益社団法人千葉県看護協会と称する。

(事 務 所)

第2条 この法人は、主たる事務所を千葉県千葉市に置く。

第2章 目的及び事業

(目 的)

第3条 この法人は、保健師、助産師、看護師及び准看護師(以下「看護師等」という。)の資質向上を図り、看護師等が医療の担い手として誇りを持ち安心して働き続けられる環境づくりと地域のニーズに応える保健・医療・福祉活動を推進することにより、看護を通じて県民の健康な生活の実現に貢献することを目的とする。

(事 業)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 教育・研修等による看護の質の向上に関する事業
 - (2) 看護師等の労働環境等の改善、就業促進等により、看護師等の人材確保・定着に関する事業
 - (3) 訪問看護の推進に関する事業
 - (4) 県民への健康・福祉の増進に関する事業
 - (5) 看護に関する調査研究、看護業務の開発及び看護制度への提言等に関する事業
 - (6) 介護保険法に基づく指定居宅サービス、居宅介護支援に関する事業並びに健康保険法に基づく訪問看護に関する事業
 - (7) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業
- 2 前項の事業は千葉県内で行うものとする。

第3章 会 員

(会員の種別)

第5条 この法人の会員は次のとおりとする。

- (1) 正会員 千葉県に居住し又は勤務する看護師等の免許(以下「免許」という。)を有する者であって、この法人の目的に賛同して入会した個人
 - (2) 賛助会員 この法人の目的に賛同し、理事会の推薦を受け、その事業を推進するため総会において定められた会費を拠出した個人又は団体
 - (3) 名誉会員保健事業、助産事業又は看護事業において特に功労のあった者又はこの法人の事業に特に功労があった者で理事会が推薦し総会で承認された個人
- 2 前項の会員のうち正会員をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律(平成18年法律第48号。(以下「一般法人法」という。))上の社員とする。

(入 会)

第6条 この法人の会員になろうとする者は会長が定めるところにより申込書を提出しなければならない。ただし、第5条に定める賛助会員及び名誉会員については、この限りでない。

- 2 第9条の規定により除名された者が再び入会しようとするときは、理事会の承認を受けなければならない。

(入会金及び会費)

第7条 この法人の事業活動に経常的に生じる費用に充てるため、会員は、入会金及び会費として、総会において別に定める額を支払う義務を負う。ただし、名誉会員はこの限りでない。

- 2 会員の資格は前項の入会金及び会費を納めたときから生じる。
- 3 既納の会費は、その理由の如何を問わず、これを返還しないものとする。

(任意退会)

第 8 条 会員は、会長に申し出ることにより、任意にいつでも退会することができる。

(除 名)

第 9 条 会員が次のいずれかに該当するに至ったときは、総会の決議によって当該会員を除名することができる。

- (1) この定款その他の規則に違反したとき
- (2) この法人の名誉を毀損し又は目的に反する行為をしたとき
- (3) 会員としての義務に違反し又はこの法人の秩序を乱す行為をしたとき
- (4) その他除名すべき正当な事由があるとき

2 前項の規定により会員を除名しようとするときは、当該総会の日の1週間前までに当該会員に理由を付してその旨を通知し、かつ総会でその会員に弁明の機会を与えなければならない。

3 会長は、会員を除名したときは、除名した会員に対しその旨を通知しなければならない。

(会員資格の喪失)

第 10 条 前 2 条の場合のほか、会員は次のいずれかに該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 当該会員が死亡し、又は解散したとき
- (2) 免許の取消処分を受けたとき
- (3) 総会員が同意したとき
- (4) その他会員資格に該当しなくなったとき

第 4 章 総 会

(構 成)

第 11 条 総会は、すべての会員をもって構成する。

2 賛助会員及び名誉会員は、総会に出席して意見を述べることができる。

3 第1項に定める総会をもって一般法人法上の社員総会とする。

(権 限)

第 12 条 総会は、次の事項について決議する。

- (1) 入会金及び会費の額
- (2) 名誉会員の承認
- (3) 会員の除名
- (4) 理事及び監事の選任及び解任
- (5) 理事及び監事の報酬等の額
- (6) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）
- (7) 事業報告書の承認
- (8) 定款の変更
- (9) 事業の全部又は一部の譲渡
- (10) 解散及び残余財産の処分
- (11) その他総会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開 催)

第 13 条 総会は、定時総会として毎年度6月に1回開催するほか、必要がある場合に開催する。

(招 集)

第 14 条 総会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき会長が招集する。

2 総正会員の議決権の10分の1以上の議決権を有する正会員は、会長に対して、総会の目的である事項及び招集の理由を示して、総会の招集を請求することができる。

3 会長は、前項の規定による請求があったときは、その日から30日以内に総会を招集しなければならない。

(議 長)

第 15 条 総会の議長は、当該総会において、出席正会員の中から選出する。

この場合において、議長が選出されるまでの仮議長は、会長がこれに当たる。

(議 決 権)

第 16 条 総会における議決権は、正会員 1 名につき 1 個とする。

(決 議)

第 17 条 総会の決議は、総正会員の議決権の過半数を有する正会員が出席し、出席した当該正会員の議決権の過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、総正会員の半数以上であって、総正会員の議決権の 3 分の 2 以上に当たる多数をもって行う。

- (1) 会員の除名
- (2) 監事の解任
- (3) 定款の変更
- (4) 解散
- (5) その他法令で定められた事項

3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。

(議決権の代理行使)

第 18 条 やむを得ない理由のため、総会に出席できない正会員は、委任状その他の代理権を証明する書面を会長に提出して、他の正会員を代理人として総会の議決権を行使することができる。代理権の授与は、総会ごとに提出しなければならない。

2 前項の場合における前条の規定の適用については、その正会員は総会に出席したものとみなす。

(書面による議決権の行使)

第 19 条 理事会において総会に出席できない正会員が書面で議決権を行使することができることを定めたときは、総会に出席できない正会員は、議決権行使書をもって議決権を行使することができる。

2 前項の規定により書面によって行使した議決権の数は、第17条の出席した正会員の議決権の数に算入する。

(議 事 録)

第 20 条 総会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成し、総会の日から10年間、主たる事務所に備え置かなければならない。

2 議長及び当該総会において正会員の中から選任された議事録署名人 2 人以上が、前項の議事録に署名捺印する。

第 5 章 役 員

(役員の設定)

第 21 条 この法人には、次の役員を置く。

- (1) 理事 18 名以上 21 名以内
- (2) 監事 3 名

理事のうち 1 名を会長、2 名を副会長、1 名を専務理事、3 名以内を常任理事、4 名を職能理事（保健師及び助産師はそれぞれ 1 名、看護師は 2 名）とする。

2 前項の会長をもって一般法人法に規定する代表理事とし、専務理事、常任理事をもって一般法人法に規定する業務執行理事（理事会の決議により法人の業務を執行する理事として選定された理事をいう。以下同じ。）とする。

(役員を選任)

第 22 条 理事及び監事は、総会の決議によって選任する。

2 代表理事及び業務執行理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

3 この法人の理事のうちには、理事のいずれか 1 人及びその親族その他特殊の関係がある者の合計数が、理事総数（現在数）の 3 分の 1 を超えて含まれることがあってはならない。

4 この法人の監事には、この法人の理事（親族その他特殊の関係がある者を含む。）及びこの法人の使用人もしくはこれに準ずる者が含まれてはならない。また、各監事は、相互に親族

その他特殊の関係があつてはならない。

- 5 他の同一団体の役員又は使用人である者その他これに準ずる相互に密接な関係にある者として政令で定める者である理事の合計数が、理事の総数の3分の1を超えてはならない。監事についても同様とする。

(理事の職務及び権限)

- 第 23 条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。
- 2 会長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行する。
 - 3 業務執行理事は、理事会において別に定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。
 - 4 会長及び業務執行理事は、4箇月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

- 第 24 条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。
- 2 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況を、調査することができる。
 - 3 監事は、総会及び理事会に出席し、必要があると認めるときは意見を述べるすることができる。

(役員任期)

- 第 25 条 理事及び監事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時総会の終結の時までとする。ただし、任期の満了前に退任した理事又は監事の補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。
- 2 理事又は監事については、再任を妨げない。
 - 3 理事又は監事が第21条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

- 第 26 条 理事及び監事は、総会の決議によって解任することができる

(役員報酬等)

- 第 27 条 理事及び監事に対して、その職務の対価として総会において定める総額の範囲内で、総会において別に定める報酬等の支給の基準にしたがって算定した額を報酬等として支給することができる。
- 2 理事及び監事に対して、その職務を執行するために要する費用を弁償することができる。
 - 3 前2項に関し必要な事項は、理事会の決議により別に定める理事等の報酬及び費用に関する規程による。

(役員責任及び免除)

- 第 28 条 理事又は監事が、その任務を怠り、この法人に対し、これによって生じた損害を賠償する責任を負った場合、当該理事又は監事(理事又は監事であった者を含む。)が善意でかつ重大な過失がない場合には、この法人は一般法人法第114条第1項の規定により、当該理事又は監事の責任を法令の限度において理事会の決議によって免除することができる。
- 2 この法人は、外部役員との間で、前項の責任について、法令に定める要件に該当する場合には責任を限定する契約を理事会の決議によって、締結することができる。ただし、その契約に基づく責任の限度額は、法令の定める最低責任限度額とする。
 - 3 第1項及び第2項の規定により理事会の決議があつた場合には、総会に報告するものとする。

第6章 理 事 会

(理事会の設置)

- 第 29 条 この法人に理事会を置く。
- 2 理事会は、すべての理事をもって構成する。

(権 限)

- 第 30 条 理事会は、次の職務を行う。
- (1) この法人の業務執行の決定

- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 会長及び副会長、専務理事、常任理事の選任及び解職

(議 長)

第 31 条 理事会の議長は、会長がこれに当たる。ただし、会長に事故あるときは、あらかじめ理事会において定めた順序による理事が議長となる。

(定足数及び決議)

第 32 条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、理事が理事会の決議の目的である事項について提案した場合において、理事の全員が当該提案について書面により同意の意思表示をしたときは、その提案を可決する理事会の決議があったものとみなす。ただし、監事はその提案に異議を述べたときはこの限りでない。

(議 事 録)

第 33 条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成し、理事会の日から10年間、主たる事務所に備え置かなければならない。

- 2 出席した会長及び監事は、前項の議事録に記名押印する。ただし、代表理事の選定を行う理事会については、他の出席した理事も記名押印する。

第7章 職 能 委 員 会

(職能委員会)

第 34 条 この法人に次の職能委員会を置く。

- (1) 保健師職能委員会
- (2) 助産師職能委員会
- (3) 看護師職能委員会

- 2 職能委員会は、それぞれの職能上に関する問題を審議し、会長に助言する。
- 3 各職能委員会の委員長は、保健師職能、助産師職能、看護師職能の理事をもってこれに充てる。
- 4 各職能委員会の委員は、理事会においてこれを選任する。
- 5 各職能委員会の構成及び運営に必要な事項は、理事会の決議により別に定める。

第8章 委 員 会

(委員会)

第 35 条 この定款に定めるもののほか、この法人の事業を推進するため必要があるときは、理事会の決議により委員会を設置することができる。

- 2 委員会は、それぞれ専門事項に関する調査研究、企画を行い、会長の諮問事項を審査する。
- 3 委員会の任務、構成及び運営に関し必要な事項は、理事会の決議により別に定める。

第9章 地 区 部 会

(地区部会)

第 36 条 この法人に、地域において第3条の目的を達成するため、地区部会を設置する。

- 2 地区部会の設置、組織及び運営に関し必要な事項は理事会の決議により別に定める。
- 3 各地区部会は、担当分掌地区の事業計画を審議、企画し、その事業を実施する。

第10章 資 産 及 び 会 計

(事業年度)

第 37 条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(事業計画及び予算)

第 38 条 この法人の事業計画書、損益計算書(収支予算書)、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類については、毎事業年度の開始の日の前日までに、会長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も同様とする。

2 事業計画及び予算書等については総会に報告するものとする。

3 前項の書類については、主たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

第 39 条 この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後3ヶ月以内に、会長が次の書類を作成し、監事の監査を受け、理事会の承認を経て総会に提出し、第1号及び第2号の書類についてはその内容を報告し、第3号から第6号までの書類については承認を受けなければならない。

(1) 事業報告

(2) 事業報告の附属明細書

(3) 貸借対照表

(4) 損益計算書(正味財産増減計算書)

(5) 貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)の附属明細書

(6) 財産目録

2 第1項の規定により報告又は承認された書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(1) 監査報告

(2) 理事及び監事の名簿

(3) 理事及び監事の報酬等の支給の基準を記載した書類

(4) 運営組織及び事業活動の状況の概要及びこれらに関する数値のうち重要なものを記載した書類

(公益目的取得財産残額の算定)

第 40 条 会長は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行規則第48条の規定に基づき、毎事業年度の末日における公益目的取得財産額を算定し、前条2項第4号の書類に記載するものとする。

第11章 定款の変更及び解散

(定款の変更)

第 41 条 この定款は、総会の決議により変更することができる。

(解 散)

第 42 条 この法人は、総会の決議その他法令で定められた事由により解散する。

(公益認定の取消し等に伴う財産の贈与)

第 43 条 この法人が公益認定の取消しの処分を受けた場合又は合併により法人が消滅する場合(その権利義務を承継する法人が公益法人であるときを除く。)には、総会の決議を経て、公益目的取得財産残額に相当する額の財産を、当該公益認定の取消しの日又は当該合併の日から1ヶ月以内に、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律(平成18年法律第49号。)(以下「認定法」という。)第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

(剰余金の処分制限)

第 44 条 この法人は、剰余金の分配をすることはできない。

(残余財産の帰属)

第 45 条 この法人が清算をする場合において有する残余財産は、総会の決議を経て、認定法第5条17条に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

第12章 公 告 の 方 法

(公 告)

第 46 条 この法人の公告は、主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法により行う。

第13章 事 務 局 そ の 他

(事 務 局)

第 47 条 この法人の事務処理をするため、事務局を設置する。

2 事務局には、所要の職員を置く。

3 職員は、会長が任免する。

4 事務局の組織及び運営に関し必要事項は、理事会の決議を経て、別に会長が定める。

(委 任)

第 48 条 この定款に定めるもののほか、この法人の運営に関し必要な事項は、理事会の決議を経て会長が定める。

附 則

1 この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律（平成18年法律第50号）（以下「整備法」という。）第106条第1項に定める公益法人の設立の登記の日から施行する。

2 この定款は、整備法第106条第1項に定める特例民法法人の解散の登記と、公益法人の設立の登記を行ったときは、第37条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を事業年度の末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。

3 第22条の規定にかかわらずこの法人の最初の代表理事は松永敏子、業務執行理事は山木まさ、佐瀬けい子及び藤澤里子とする。

附 則

1 一部変更 平成27年6月18日から施行する。

(第21条 第1項 職能理事の定数変更)

Ⅷ あ と が き

本記念誌の発刊にご協力くださいました皆さまに、創立40周年記念事業企画運営委員会および本協会一同、心より感謝申し上げます。

創立40周年記念事業は、長期化している新型コロナウイルス感染症拡大により記念式典の開催が叶わず、創立40周年記念の特別表彰および記念誌発行となりました。記念誌作成にあたりましては、広く会員の皆様に参加していただくために副題を公募して、10年間を振り返っていただく機会とさせていただきました。

この10年間のあゆみを振り返って、看護職の誇りと専門職としての倫理観をもって看護の質向上および労働環境改善に取り組んできたことが改めて伝わって参りました。県内の看護職の努力、先達の導き、地域の生活者の協力、関係者のご尽力を賜りながら発展してきたといっても過言ではありません。看護職者として変えてはならない大切なことを中核に、時代のニーズに対応する柔軟さがあることに気づかされます。これらを継続することが今後の更なる発展に繋がっていくでしょう。今後も本協会は看護の専門性発揮のために、これまで以上に力を尽くす所存でございます。引き続き、皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

公益社団法人 千葉県看護協会 副会長
創立40周年記念事業企画運営委員会 委員長

浅野 美知恵

創立40周年記念事業企画運営委員会

委員長	浅野美知恵
副委員長	井上恵子
委員	渡辺尚子
	久保木知子
	青木康子
	田中且子
	小宮山日登美
事務局	伊藤淳子
	総務部 総務課